久留米城下町遺跡

（原古賀町一丁目）

－ 第 31 次発掘調査報告 －

令和６（２０２４）年３月
久留米市教育委員会

序

久留米市では、令和２年度に『久留米市文化財保存活用地域計画』（令和３年度文化庁長官認定）を策定いたしました。この計画では、文化財を国県市の指定に関わらず「歴史遺産」として広く捉え、これを将来にわたって「見つけ守り、活かし伝える」方針を定めました。歴史遺産は、私たちの郷土に暮らす人々が古い時代から現代まで積み重ねてきた文化を体現するものです。この貴重な歴史遺産を次世代へ継承するため、本市では継続的な保存・管理を図るとともに、市民が身近な歴史文化にふれ、地域と自己のつながりを認識できる機会を提供することで郷土愛を醸成し、さらには学校・社会教育や地域振興、観光振興など、久留米の新たな魅力の創出につながる歴史文化のまちづくりを進めています。

本書で報告する久留米城下町遺跡も大切な歴史遺産の一つで、共同住宅に先立つ発掘調査として、令和４年度に実施したものです。発掘調査では主に江戸時代の遺構と遺物が出土し、貴重な成果を挙げることができました。

今回の発掘調査とその成果を収録した本書の発行によって、地域の歴史解明、さらに文化財保護の理解や普及等に多少なりとも貢献すると同時に、なにより本市の魅力の創出につながれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査および本書の発行に際しまして、多大なご理解のもとにご協力を頂きました関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

令和６年３月 31 日

久留米市教育委員会
教育長　井上謙介

例　言

1．本書は、共同住宅建設に先立ち株式会社エクストラパートナーの委託を受けて実施した久留米城下町遺跡第31次調査の発掘調査報告書である。

2．本調査は久留米市教育委員会が主体となり、久留米市市民文化部文化財保護課の廣木誠が担当した。

3．本書に掲載した遺構実測図は廣木が作成し、浄書は廣木・横井理絵が行った。また、遺物出土状況図および土層図は水糸メッシュ法で、遺構配置図は株式会社 CUBIC 製ソフト「遺構くん cubic」で廣木が作成した。

4．本書に掲載した遺構・全景写真および遺物写真の撮影は廣木が行った。遺構・全景写真は Canon EOS 6D を、遺物写真は PENTAX K-1 Mark Ⅱを用いて撮影した。

5．本書に使用した遺構の略記号は、ＳＤ‐溝、ＳＥ‐井戸、ＳＫ‐土坑、ＳＸ‐その他を示す。

6．遺構実測図は国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を基に作成し、図面方位は座標北を示す。なお、平成28年に発生した熊本地震に係るパラメータ補正は行っていない。

7．本調査の略記号は LKM‐031、調査番号は 202209 である。

8．本調査に関わる遺物・記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターに収蔵・保管されている。

9．本書の執筆・編集は、廣木が行った。

本 文 目 次

Ⅰ．はじめに …… 1
　ⅰ．調査に至る経緯 …… 1
　ⅱ．調査・報告書作成に係わる体制 …… 1
Ⅱ．位置と環境 …… 2
Ⅲ．調査の記録 …… 4
　ⅰ．調査の目的と経過 …… 4
　ⅱ．検出遺構 …… 4
　ⅲ．出土遺物 …… 20
Ⅳ．総括 …… 26
報告書抄録 …… 巻末

挿 図 目 次

第 1 図　調査地点と周辺の遺跡分布図(1/25,000) …… 2
第 2 図　延宝八年図（1680 年） …… 3
第 3 図　天保年間図（1830～1844 年） …… 3
第 4 図　調査地点の位置と周辺地形図（1/2,500） …… 3
第 5 図　久留米城下町遺跡第 31 次調査遺構配置図(1/100) …… 5
第 6 図　ＳＤ25 土層図（1/40） …… 6
第 7 図　ＳＥ33・50 実測図（1/40） …… 7
第 8 図　ＳＫ１・２・５～７・11 実測図（1/40） …… 8
第 9 図　ＳＫ14・15・19～22 実測図（1/40） …… 10
第 10 図　ＳＫ23・24・26・27・29・30 実測図（1/40） …… 12
第 11 図　ＳＫ31・32・34～37 実測図（1/40） …… 14
第 12 図　ＳＫ38・40・42～45 実測図（1/40） …… 16
第 13 図　ＳＫ46～49・51・52 実測図（1/40） …… 18
第 14 図　ＳＸ10 実測図(1/40) …… 19

表 目 次

第 1 表　出土遺物観察表① …… 21
第 2 表　出土遺物観察表② …… 22

第 3 表　出土遺物観察表③…… 23
第 4 表　出土遺物観察表④…… 24
第 5 表　出土遺物観察表⑤…… 25

図 版 目 次

図版１（１）Ⅰ区全景（北東から）
（２）Ⅱ区全景（北東から）
図版２（１）Ⅱ区西側トレンチ掘削状況（南西から）
（２）ＳＤ８掘削状況（北東から）
（３）ＳＤ25Ａ－Ａ´間土層（北西から）
（４）ＳＤ25Ｂ－Ｂ´間土層（北西から）
（５）ＳＤ25Ｃ－Ｃ´間土層（北西から）
（６）ＳＤ25 掘削状況（北西から）
（７）ＳＥ33 土層（東から）
（８）ＳＥ50 土層（東から）
図版３（１）ＳＥ50 掘削状況（東から）
（２）ＳＫ１完掘状況（北西から）
（３）ＳＫ２完掘状況（北から）
（４）ＳＫ５完掘状況（北西から）
（５）ＳＫ６完掘状況（西から）
（６）ＳＫ７完掘状況（西から）
（７）ＳＫ11 土層（北西から）
（８）ＳＫ11 完掘状況（北西から）
図版４（１）ＳＫ14 掘削状況（北東から）
（２）ＳＫ15 土層（東から）
（３）ＳＫ19 土層（北東から）
（４）ＳＫ19 掘削状況（南東から）
（５）ＳＫ20 掘削状況（西から）
（６）ＳＫ21 完掘状況（東から）
（７）ＳＫ22 掘削状況（北西から）
（８）ＳＫ23 完掘状況（北西から）
図版５（１）ＳＫ24 完掘状況（北から）
（２）ＳＫ26 土層（北東から）
（３）ＳＫ26 遺物出土状況（南東から）
（４）ＳＫ26 遺物出土状況部分拡大（北東から）
（５）ＳＫ27 完掘状況（北から）
（６）ＳＫ30 完掘状況（北東から）
（７）ＳＫ31 完掘状況（北西から）
（８）ＳＫ32 土層（南から）
図版６（１）ＳＫ32 完掘状況（東から）
（２）ＳＫ34 土層（北西から）
（３）ＳＫ34 完掘状況（北西から）
（４）ＳＫ35 完掘状況（北東から）
（５）ＳＫ36 完掘状況（北東から）
（６）ＳＫ37 土層（北東から）
（７）ＳＫ37 完掘状況（南西から）
（８）ＳＫ38 完掘状況（北から）
図版７（１）ＳＫ40 完掘状況（南西から）
（２）ＳＫ42 完掘状況（東から）
（３）ＳＫ43 土層（南東から）
（４）ＳＫ43 完掘状況（南東から）
（５）ＳＫ44 土層（南東から）
（６）ＳＫ44 完掘状況（南東から）
（７）ＳＫ45 完掘状況（北西から）
（８）ＳＫ46 完掘状況（南西から）
図版８（１）ＳＫ47 土層（北東から）
（２）ＳＫ47 完掘状況（東から）
（３）ＳＫ48 土層（北東から）
（４）ＳＫ49 土層（北東から）
（５）ＳＫ48・49 完掘状況（西から）
（６）ＳＫ51 完掘状況（北東から）
（７）ＳＫ52 完掘状況（北東から）
（８）ＳＸ10 土層（南東から）
図版９（１）ＳＸ10 遺物出土状況（北西から）
（２）ＳＸ10 完掘状況（北東から）
（３）ＳＸ100 検出状況（北から）
（４）ＳＸ100 土層（北東から）
出土遺物①
図版 10　出土遺物②
図版 11　出土遺物③
図版 12　出土遺物④
図版 13　出土遺物⑤
図版 14　出土遺物⑥
図版 15　出土遺物⑦
図版 16　出土遺物⑧
図版 17　出土遺物⑨

Ⅰ．はじめに

ⅰ．調査に至る経緯

本調査は、共同住宅建設に先立つ発掘調査である。令和4年7月20日、土地所有者より久留米市日吉町5番9・10・11・56における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。一帯は周知の遺跡である久留米城下町遺跡に含まれ、江戸時代の遺構が展開していることが想定されたため、令和4年7月26日に試掘調査を行った。結果、土坑や18・19世紀代の遺物を検出したため、発掘調査が必要である旨を回答した。その後、協議を重ね、調査費用を原因者負担とすること、発掘調査を令和4年度、報告書作成を令和5年度に実施することで合意に至った。協議結果を受け、令和4年9月2日に株式会社エクストラパートナーから「発掘調査の依頼」が提出され、文化財保護法による諸手続きを済ませた後、令和4年9月13日に依頼者と久留米市は「久留米城下町遺跡第31次調査における埋蔵文化財に関する協定書」および「令和4年度埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を取り交わした。調査期間は、令和4年10月6日から令和4年12月15日までである。また、出土品整理・報告書作成作業は令和5年5月1日に「埋蔵文化財発掘調査報告書作成業務委託契約書」を取り交わし、実施した。報告書作成期間は令和6年3月31日までである。

ⅱ．調査・報告書作成に係わる体制

		令和4年度	令和5年度
調査委託：株式会社エクストラパートナー	代表取締役	原 久則	原 久則
調査主体：久留米市教育委員会	教育長：	井上 謙介	井上 謙介
調査総括：市民文化部	部長：	竹村 政高	竹村 政高
	次長：	深堀 尚子	古賀 裕二
文化財保護課	課長：	水島 秀雄	井上 英俊
	課長補佐：	田中 健二	白木 守
	主査：	小澤 太郎	小澤 太郎
	事務主査：	江島 伸彦	江島 伸彦
	調査担当：	廣木 誠	
	整理担当：	廣木 誠	廣木 誠
		宮﨑 彩香	江藤 玲子
		今村 理恵	今村 理恵（～12月）

会計年度任用職員

発掘調査　案納 哲夫、大淵 文子、國武 三歳、原 博文、福田 孝利、堀江 俊文、山田 治代、横山 満浩（令和4年度）

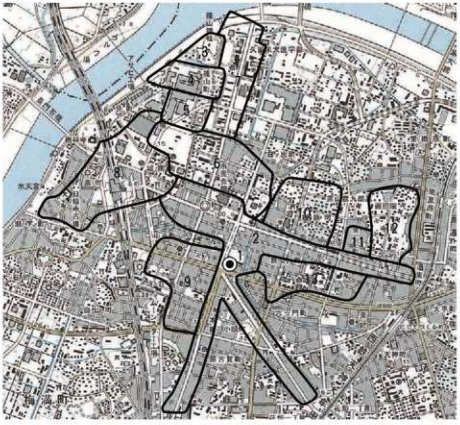
整理作業　井上 千恵美、椛島 かおり、野口 晴香、山口 久美子（令和4年度）
江口 里織、横井 理絵（令和5年度）

Ⅱ．　位置と環境

久留米市は、九州一の大河筑後川の中流域にあたり、筑紫平野の中央に位置する。古代においては国府や国分寺が置かれ、筑後国の政治・経済・文化の中心地として、また、近世には毛利氏・田中氏の治世を経て有馬氏21万石の城下町として栄えてきた。さらに近代に至っては軍都として、また繊維産業やゴム産業の街として発展し、現在は中核市として県南の中心的都市となっている。

ここに報告する久留米城下町遺跡は、筑後川左岸の高良山から派生する段丘上の末端付近に位置する遺跡で、JR久留米駅付近から西鉄久留米駅までの市街地内に広く展開する。一帯は市街地を東西に横断する「明治通り」を中心として商工業施設やマンションなどが建ち並ぶ地区であるが、この基盤となったのは江戸時代初期に開始された城下町の築造に遡る。

久留米城の築造時期については、『筑後将士軍談』によれば永正年間(1504～1521)に築城され「笹原城」と呼ばれたという。天文年間(1532～1555)になると御井郡司が城郭を構え、天正年間(1573～1592)初年には高良山座主の弟麟圭が城主となる。次いで、豊臣秀吉の九州国割によって小早川秀包が久留米城に入城した。両替町遺跡(第2次調査)では教会に比定される大型建物が検出された。これは当地におけるキリスト教の普及拠点と思われ、普及対象となる人々と彼らが住まう一定規模の街区の存在を想起させるが、詳細は定かではない。関ヶ原合戦後、久留米城は柳川城主田中吉政の支城となり、その次男則政が配された。この頃には城郭の改修や柳川往還などの交通網の整



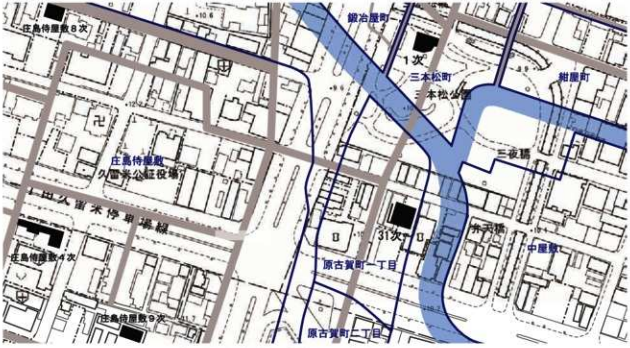
第１図　調査地点と周辺の遺跡分布図（1/25,000）

備に加え、町屋の建設がなされたことが文献等から窺える。田中家改易後の元和7年（1621）に有馬豊氏が筑後国北半21万石の大名として筑後に入部すると、城郭の拡充や侍屋敷の整備とともに町屋の改変を行い、寛永年間（1624～1644）には基本的な町割りが完成したと考えられている。

調査地は久留米城外郭の南部に位置し、久留米城下の原古賀町一丁目にあたる。柳川往還沿いの町で、北は池町川を境に三本松町とつながる。西は庄島侍屋敷と接し、東は二丁目で小頭町通りに分岐する。『石原家記』には寛文9年（1669）に当町三丁目より南に暫次家が建った記録があることから、これ以前には当町一丁目は整備されていたものと考えられる。町名は、久留米藩士矢野一貞が著した『柏葉抄録』によると中世の春野長左衛門の屋敷に由来し、『延宝八年久留米市街図』にも「ハルノコカ」と見え、五丁目まで確認できる。その後、度々大火に遭って町入替えや拡充、再編が行われるなかで、駅屋も設置され城下南方の要地であったことが窺える。天保3年（1832）には七丁目から十丁目に再編され、明治9年（1876）には苧扱川町と改称されている。

第2図　延宝八年図（1680年、○は調査地）

第3図　天保年間図（1830～1844年、○は調査地）



第4図　調査地点の位置と周辺地形図（1/2,500）

Ⅲ．　調査の記録

ⅰ．調査の目的と経過

調査地点は久留米城外郭の南側に形成された「下」字状に展開する遺跡の中心付近に位置する。江戸時代の絵図によると、旧池町川の南側隣接地、柳川往還沿いに形成された原古賀一丁目の中央付近にあたり、東側には池町川を挟んで「播磨中屋敷」(天保年間図)などを確認できる。以上のことから、町屋内の遺構の分布状況の把握に主眼を置きつつ、町の東境や旧池町川流路の確認を目的に調査を実施した。

現地調査は、令和4年10月6日に重機によるⅠ区の表土剥ぎから開始し、同日午後には作業員を投入して環境整備を行った。11日より遺構検出をはじめ、掘削・実測作業、写真撮影は随時行い、10月31日にⅠ区の全景写真を撮影した。撮影後Ⅰ区の埋め戻しに取りかかり、11月1日からⅡ区の表土剥ぎを開始した。表土剥ぎ終了後遺構検出を行い、遺構の掘削を進めながら、都度実測・写真撮影を実施した。12月9日、Ⅱ区の全景写真撮影を終えた後、Ⅱ区の埋め戻しとⅢ区の補足調査を並行して行い、15日にⅢ区の埋め戻しおよび機材を撤収し、全ての現地作業を終了した。

ⅱ．検出遺構

調査区は、廃土置き場等を確保する必要があったことから、東西2つの調査区に分割した。Ⅱ区西側については撹乱の影響が著しく、トレンチの掘削範囲の記録と写真記録を行うに留めた。また、Ⅰ・Ⅱ区間の遺構の残存状況を確認することを意図して、Ⅲ区を設定している。なお、遺構番号については通し番号を付した。

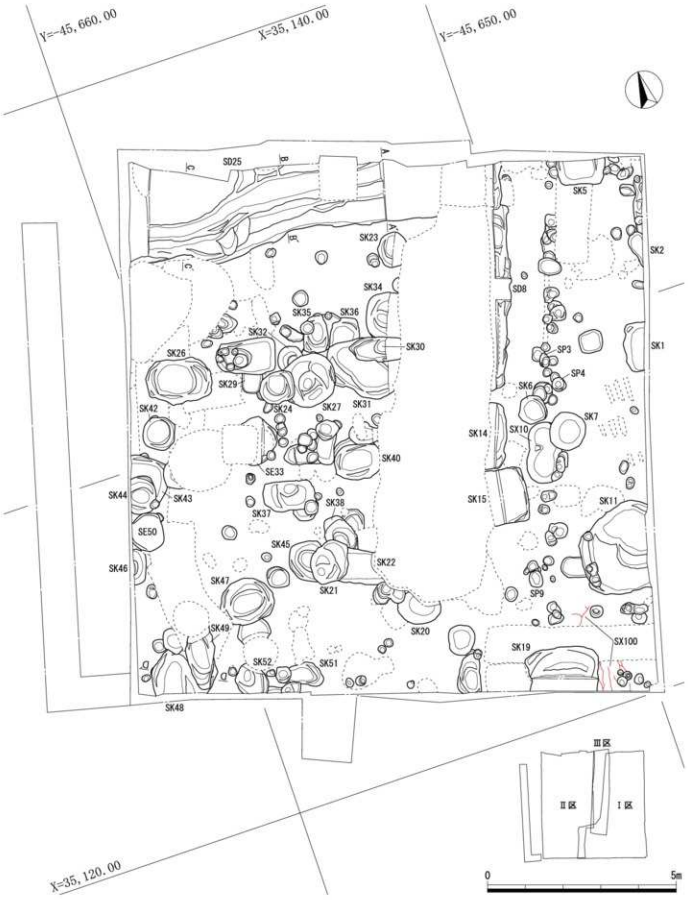
現況は宅地および雑種地であり、周辺地形は調査地を東から北へ迂回するように池町川が流れており、北方の流路に向かって僅かに傾斜している。調査対象地内の標高も南側が10.5m、北側が10.1mであり、0.4mの比高がある。基本層序は、Ⅰ区北東隅の観察では、上位より造成土(25㎝)、にぶい褐色土(5㎝)、褐灰色土(10㎝)、炭化層(戦災層、5㎝)、黒灰色土(50㎝)が堆積し、遺構検出面である地山に至る。遺構検出面までの深さは約1mで、標高は南側が9.6m、北側が9.2mを測る。

検出した主な遺構は、溝2条、井戸2基、土坑36基、埋甕遺構1基および地割れ痕跡である。当地では近代以降も間断なく土地利用がなされており、特に調査区中央と西側において撹乱の影響が著しいが、Ⅱ区の中央付近を中心に多くの遺構を確認できた。以下、各遺構について詳述する。

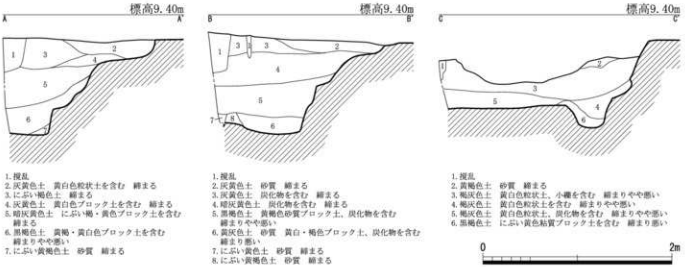
溝

ＳＤ8（第5図，図版2）

Ⅰ区北西で検出した南北に延びる溝である。西側に大きく撹乱を受け、北側は調査区外に至るため詳細は不明である。検出長6.1m、検出幅0.56mで、深さは最大0.62mを測る。底面は、凹凸が著しいが北方へ比高を減じており、比高15cm程度を測る。埋土は黒灰色土で、炭化物および橙色ブロック土を多く含む。埋土内からは近世陶磁器、瓦質土器、鉄製釘片、銭貨が出土した。



第５図　久留米城下町遺跡第 31 次調査遺構配置図（1/100）



第６図　ＳＤ25 土層図（1/40）

ＳＤ25（第6図，図版2）

Ⅱ区北側で検出した。Ⅰ区において本遺構の東側延長部を確認できなかったが、遺構の形状から溝として報告する。撹乱の影響および遺構北側が調査区外に及ぶため全容は不明であるが、略東西方向に蛇行気味に延びるもので、検出長8.3m、検出幅2.3m、最大深さ1.06mを測る。底面は西から東へと緩傾斜を成しており、比高は10cm程度である。断面形は逆台形に近く、底面の南端部が一段深く掘り込まれている。埋土は全体的にブロック土を含み、一部炭化物を有する。東部および中央部がよく締まる土壌であるのに対して、西部は締まりが悪かった。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、貝類片、鉄滓2点などが出土した。

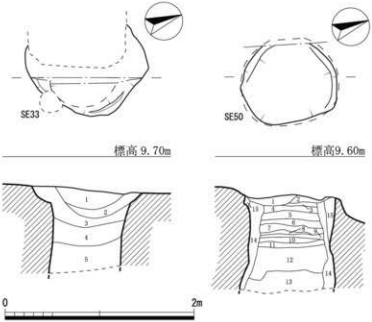
井戸

ＳＥ33（第7図，図版2）

Ⅱ区中央で検出した。西側に撹乱を受けるが平面形は円形と推察され、直径1.16mを測る。検出面より0.9mの深さまで掘削したのち、土層観察を行った。第1・2層については遺構が重複していた可能性があるが、第３層より下位は水平堆積に近くブロック土を含む。このことから、本遺構は人為的に埋没し、その過程で壁面の一部が崩落してステップが形成されたものと考えられる。機能時の直径は0.8m程度の規模であろう。埋土内からは近世陶磁器のほか、土師器、丸瓦、鉄製釘が出土した。

ＳＥ50（第7図，図版2・3）

ＳＥ33の南西3mで検出した。一部調査区外に及ぶが、平面形は円形を呈し、直径0.96mを測る。検出面より1mの深さまで掘削したのち、土層観察を行った。結果、壁面沿いに締まりの悪い土壌が認められ、本遺構は井戸枠を有していたものと推察される。また、その内部は水平堆積の様相を呈することから、人為的に廃棄されたと考えられる。井戸枠の範囲を平面で認識できず、また植物遺存体の出土もないため、詳細な構造については不明である。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘、鉄滓が出土した。



SE33
1. 黒褐色土　炭化物、焼土を含む　締まり悪い
2. 褐灰色土　炭化物を含む　締まる
3. 褐灰色土　黄白・橙色ブロック土、炭化物を含む　締まる
4. 褐灰色土　黄白色ブロック土を多量含む　よく締まる
5. 褐灰色土　黄白・橙色ブロック土、炭化物を含む　締まる

SE50
1. 褐灰色土　橙・黄白色粒状土、炭化物、礫を含む　よく締まる
2. 褐灰色土　にぶい黄褐色ブロック、炭化物、礫を含む　よく締まる
3. 褐灰色土　暗褐・黒褐・黄白色ブロック土を含む　よく締まる
4. 暗褐色土＋黒褐色土＋にぶい橙色土　よく締まる
5. 灰黄褐色土　灰白・灰色粘土を含む　よく締まる
6. 灰黄褐色土　黄白色粒状土、礫を含む　よく締まる
7. にぶい橙色土＋灰色土＋黒褐色土　よく締まる
8. 灰黄褐色土　黄白色粒状土を含む　よく締まる
9. にぶい橙色土＋灰色土＋黒褐色土　よく締まる
10. 灰黄褐色土　黄白色粒状土を含む　よく締まる
11. にぶい橙色土＋灰色土＋黒褐色土　よく締まる
12. 灰褐色土　黄白・橙色粒状土を含む　よく締まる
13. 黄白色土　砂質　橙色粒状土を含む　よく締まる
14. 灰色土　黄白色粒状土を含む　締まり悪い
15. 灰色土　黒・黄白色ブロック土を含む　締まる

第７図　ＳＥ33・50 実測図（1/40）

土坑

ＳＫ１（第8図，図版3）

Ｉ区北東側で検出した。東側が調査区外に及ぶが、平面形は隅丸長方形と思われ、規模は長軸長1.26m、短軸長0.55m以上、深さ0.7mを測る。底面はほぼ水平で、南壁は垂直に、西・北壁は外傾して立ち上がる。埋土は上位が黄灰色土、中・下位が炭化物を多く含む黒灰色土で、締まりが悪い。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦が出土したが、いずれも小片である。

ＳＫ２（第8図，図版3）

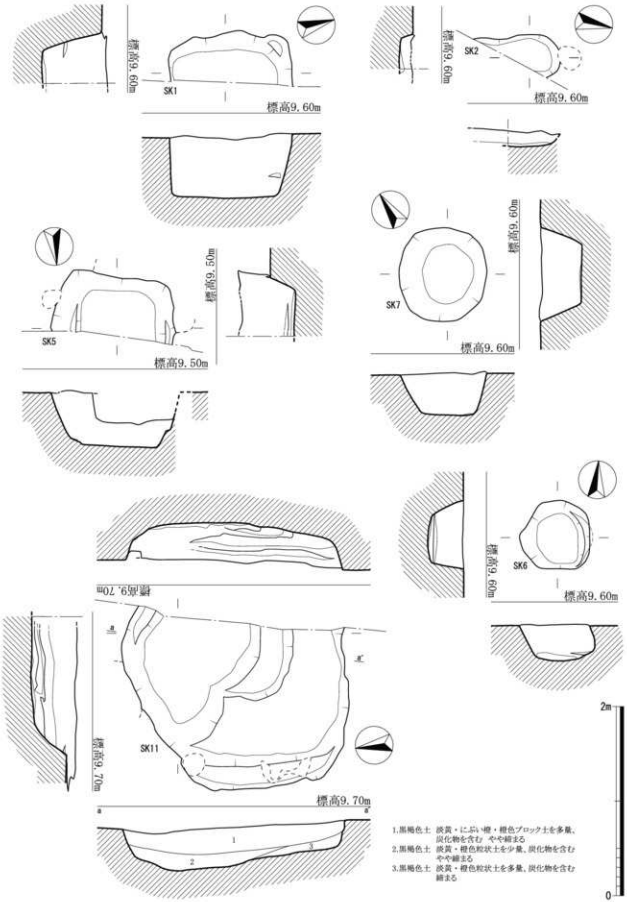
ＳＫ1の北2mで検出した。南側が調査区外に至るが、平面形は長円形と推察され、規模は長軸長0.93m以上、短軸長0.47m以上、深さ0.2mである。底面は水平で、壁面は外傾している。埋土は褐灰色を呈する単層で、埋土内からは近世陶磁器片、土師器、土製品、銭貨、ガラス製品が出土している。

ＳＫ５（第8図，図版3）

Ｉ区北端で検出した。北側が調査区外に延び、南側が撹乱を受ける。平面形は方形あるいは長方形と推察され、検出した規模は長軸長1.33m、短軸長0.69m以上、深さ0.58mである。底面はやや西側に傾斜し、東西に狭長なステップを設け、壁面は外傾して上端に至る。埋土は黒灰色土で、ブロック土と炭化物を含んでおり、よく締まる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、鉄製釘が出土した。

ＳＫ６（第8図，図版3）

Ｉ区中央で検出した平面形が楕円を呈する土坑である。規模は直径0.7～0.8m、深さ0.38mを測る。底面は凹レンズ状で、壁面は東側が袋状を呈し、その他は外傾して立ち上がる。埋土は炭化物を多く含む黒灰色土で、よく締まる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘な



第８図　ＳＫ１・２・５～７・11実測図（1/40）

どが出土した。

SK7（第8図，図版3）

SK6の東0.5mで検出した。SX10に後出する。平面形は楕円形を呈し、直径は0.9～1.0m、深さ0.46mである。底面は僅かに南東へ傾斜しており、断面形は逆台形を呈する。埋土は黒灰色で、ブロック土および炭化物を少量含む。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘、鉄片、鉄滓などが出土した。

SK11（第8図，図版3）

SK7の南東2.5mで検出した。東側の一部が調査区外に至るが、平面形は楕円形と推察され、規模は直径2.28～2.65m、深さ0.47mである。遺構内の北東側に底面を設け、その北側に一段、南側に三段のステップを有する。埋土はブロック土の多寡で3層に識別でき、いずれも黒褐色を基調とする土壌で炭化物を含む。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘、石製品、土製品が出土した。

SK14（第9図，図版4）

Ⅰ区中央の西側で検出した。西側に撹乱を受けるが、平面形は隅丸長方形と推察される。規模は長軸長1.77m、短軸長0.53m以上、深さ0.94mである。底面は丸味をもち、南北壁面は内湾気味に、東壁面は外傾して立ち上がる。埋土はよく締まる黒灰色土で、ブロック土を多く含む。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦が出土した。

SK15（第9図，図版4）

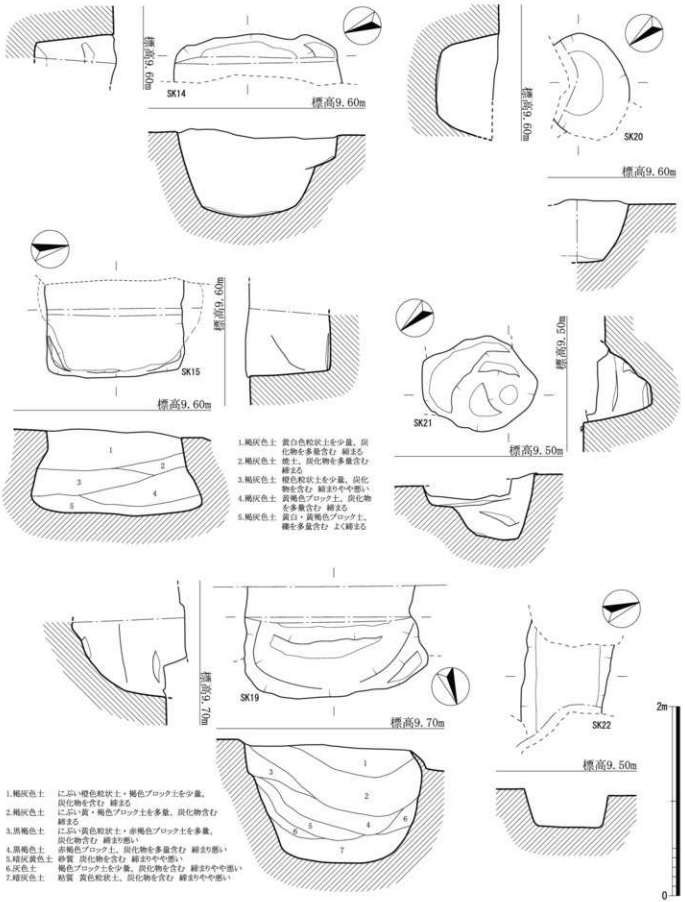
SK14の南側で検出した。西側に撹乱を受けている。平面形は長方形と思われ、規模は長軸長1.45m、短軸長0.99m以上、深さ0.9mを測る。底面はほぼ水平で、壁面は東側が垂直に立ち上がるのに対し、南・北側は袋状を呈する。埋土は褐灰色を基調とする土壌で、下層ほどブロック土を多く含む。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、金属製品、魚骨片およびシジミ・アサリ・ハマグリの貝類片が出土した。

SK19（第9図，図版4）

SK15の南3.5mで検出した。南側が調査区外に延び、北側が撹乱を受ける。平面形は隅丸方形もしくは隅丸長方形と推察され、長軸長1.95m、短軸長1.18m以上、深さ1.3mである。断面形はU字状に近く、埋土は全体的にブロック土を含み、東方から流入した状況を看取できる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘、煙管雁首、銭貨などが出土した。

SK20（第9図，図版4）

SK19の北西3mで検出した。北・西側に撹乱を受ける。平面形は卵形で、規模は長軸長1.15m以上、短軸長0.88m以上、深さ0.66mを測る。底面は凹レンズ状で、西・南壁は内湾気味に、東壁は外傾して立ち上がり上端に至る。埋土は黒灰色でブロック土を含む。また、締まりの悪い土壌であり炭化物を含む。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦、金属製品が出土したが、いずれも小片である。



第９図　ＳＫ14・15・19～22 実測図（1/40）

SK21（第9図，図版4）

SK20の北西2mで検出した。SK22・38・45に後出する。平面形は卵形を呈し、長軸長1.22m、短軸長1.01m、深さ0.71mである。遺構内の南西隅に小さな底面を有し、その北東側に三段のステップを設ける。埋土は褐灰色土の単層で、埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦が出土した。

SK22（第9図，図版4）

SK21と重複して検出した土坑である。SK21に先行し、SK38に後出する。また、東側に撹乱を受けるため全容は不明であるが、平面形は長方形であろう。規模は長軸長1.25m以上、短軸長0.92m、深さ0.4mを測る。底面は北へ僅かに傾斜し、断面形は短軸で逆台形である。埋土は黒灰色を呈する土壌で、埋土内からは近世陶器1点、土師器5点、瓦3点が出土したが、時期を特定できる遺物はない。

SK23（第10図，図版4）

Ⅱ区北東で検出した。東側に撹乱を受ける。平面形は長円形を呈し、長軸長0.95m、短軸長0.65m、深さ0.19mである。底面は凹レンズ状を呈し、南壁はステップを経て緩やかに立ち上がるのに対して、西壁および北壁は内湾気味に立ち上がる。埋土は褐灰色土の単層で、ブロック土と炭化物を少量含んでいた。埋土内からは近世磁器5点、土師器1点、銭貨片と推察される金属製品1点が出土したのみである。

SK24（第10図，図版5）

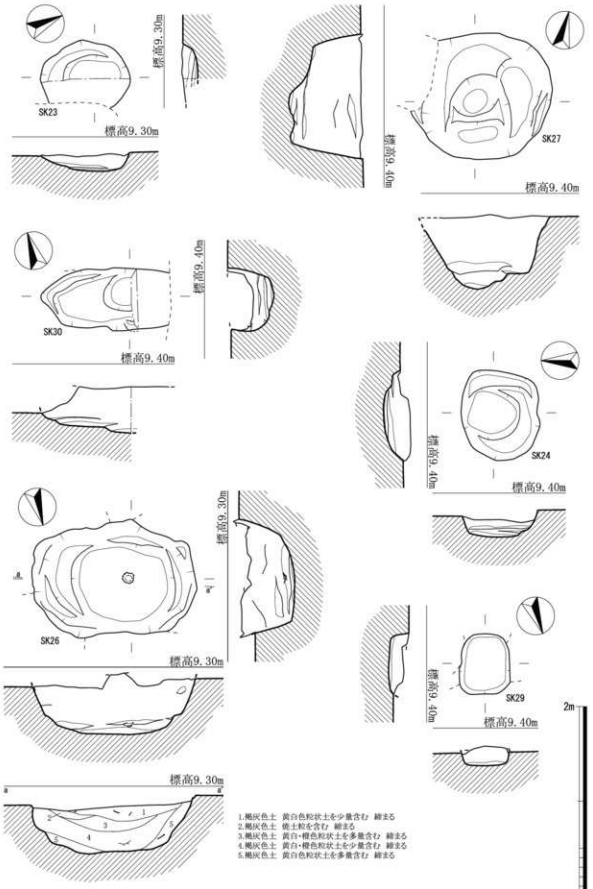
Ⅱ区中央のやや北側で検出した。SK27・29に後出する。平面形は楕円形で、直径0.8～1.0m、深さ0.29mを測る。底面は凹レンズ状を呈し、底面の南側に一段、西側に一段狭長なステップを有する。壁面は外傾して立ち上がり上端に至る。埋土は締まりが悪い褐灰色土の単層で、埋土内からは近世陶磁器5点、土師器3点が出土したが、いずれも小片であった。

SK26（第10図，図版5）

SK24の西1.5mで検出した。四方に撹乱を受けている影響で上端が乱れる。平面形は小判形を呈しており、規模は長軸長1.72m、短軸長1.19m、深さ0.64mである。底面はフラットで、底面から30cm程度上位の間に狭長なステップが複数認められ、壁面は外傾して立ち上がっている。埋土は褐灰色を基調とする土壌で、全体的によく締まり、3cm大の礫を多く含む。包含される黄白色土の多寡により5層に識別され、壁面崩落後に廃棄されたものと推察される。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦、金属製品が出土した。

SK27（第10図，図版5）

SK24の東で検出した。SK24に先行し、SK31・32に後出する。平面形は楕円形で、直径1.35～1.50m、深さ0.78mを測る。底部は遺構中央と南側の2か所が凹んでおり、その周囲に複数のステップを有する。南北壁面に対して東西壁面は大きく外傾して立ち上がる。埋土は、ブロック土を含む褐灰色で締まりが悪い。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、桟瓦、鉄製釘、鉄滓、軽石のほか、ガラス片と思われる小片が出土した。



第10図　ＳＫ23・24・26・27・29・30 実測図（1/40）

SK29（第10図）

SK24の西で検出した。SK24に先行する。平面形は隅丸長方形で、長軸長0.63m、短軸長0.53m、深さ0.2mである。底面は凹レンズ状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。埋土は褐灰色土の単層で、埋土内からは近世陶磁器3点、土師器4点、瓮片1点、煙管吸口3点が出土したが、時期を特定できる遺物はない。

SK30（第10図，図版5）

SK29の東3mで検出した。遺構検出後、SK31と同一遺構と判断し遺構の掘り下げを行ったが、土層観察でSK31に先行することが判明した。また、SK34に後出する。東側に撹乱を受けるが平面形は長円形と推察され、規模は長軸長1.37m以上、短軸長0.67m、深さ0.49mを測る。底面の西側には二段のステップが認められ、南壁面は袋状を呈している。埋土は黒灰色で、焼土および炭化物を含み、締まりが悪い。埋土内からは近世陶磁器、土師器が出土した。

SK31（第11図，図版5）

SK30の南西で検出した。SK27・30に先行し、SK36に後出する。また、東側に撹乱を受けている。平面形は不整形と推察され、規模は長軸長1.96m以上、短軸長1.40m以上、深さ0.25mである。底面はほぼ水平で、その南西側に狭長なステップを有する。北東側にもステップが認められるが、撹乱等の影響により詳細は不明である。埋土は黒灰色を呈し、よく締まる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦などが出土した。

SK32（第第11図,図版5・6）

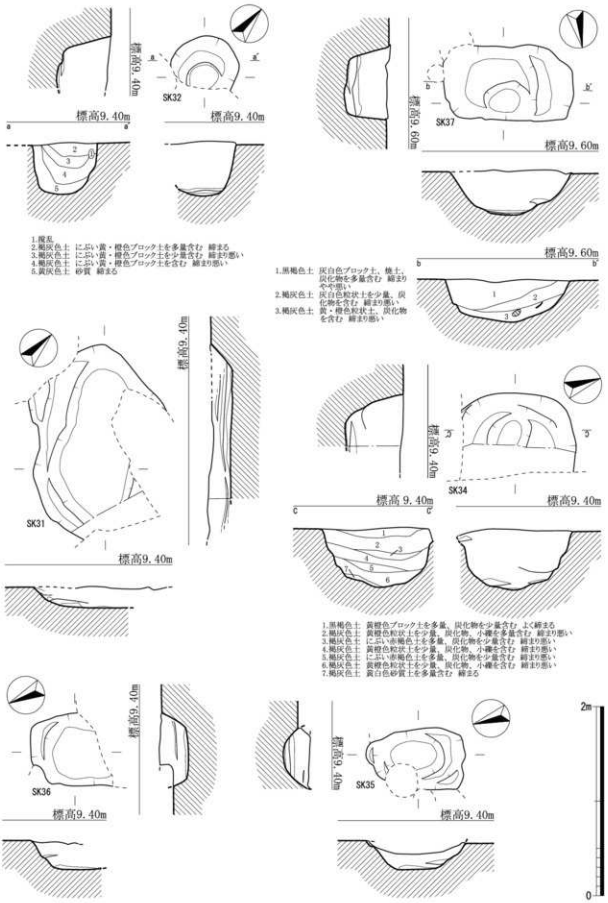
SK31の西1mで検出した。SK27に先行する。平面形は円形と推察され、規模は直径0.7m、深さ0.58mを測る。南東側に円形の底面を設け、その北西側に三日月状のステップを有する。断面形はU字状に近い。埋土は、上位に褐灰色を基調とする土壌が、最下層には地山に似る黄灰色砂質土が堆積する。埋土内から遺物は出土しなかった。

SK34（第11図，図版6）

SK30の北東に重複し、これに先行する。撹乱の影響により平面形は不明であるが、規模は長軸長1.19m、短軸長0.89m、深さ0.65mである。底面は平面規模に比して小さく、長円形を呈するものと推察される。底面の南側には狭長なステップを、北側には幅広のステップを有する。埋土は褐灰色を基調とする土壌であるが、最上位に黒褐色土が確認される。下位から中位は南から流入した様相を呈し、中位より上位はレンズ状に堆積する。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘、鉄滓が出土した。

SK35（第11図，図版6）

SK34の西1.5mで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸長1.05m、短軸長0.66m、深さ0.3mである。底面は長軸方位が水平であるのに対して、短軸方位が丸みを帯びる。壁面は、内湾気味に立ち上がり上端に至る。埋土は褐灰色で、ブロック土および炭化物を含み、よく締まる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、金属製品、土製品が出土した。



第11図　ＳＫ31・32・34～37実測図（1/40）

ＳＫ36（第11図，図版6）

ＳＫ35の東で検出した。ＳＫ31に先行する。平面形は隅丸長方形と推察され、規模は長軸長0.87m以上、短軸長0.77m、深さ0.31mを測る。底面北側に狭小なステップを有し、断面形は逆台形に近似する。埋土は褐灰色を呈する土壌で、ブロック土を多く含み、よく締まる。埋土内からは近世陶器、土師器、煙管雁首が出土した。

ＳＫ37（第11図，図版6）

Ⅱ区中央で検出した。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸長1.37m、短軸長0.8m、深さ0.46mを測る。遺構内中央北側に卵形の小さな底面を設け、その南側に幅広の、西側に狭小なステップを有する。東西断面形はすり鉢状であるのに対して、南北断面は逆台形を呈する。埋土は3層からなり、西方から埋没した状況を看取できる。いずれも締まりは悪く、上層は多量の炭化物・焼土が認められた。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘が出土した。

ＳＫ38（第12図，図版6）

ＳＫ37の南東0.5mで検出した。ＳＫ21・22に先行する。平面形は卵形と推察され、規模は長軸長1.14m以上、短軸長0.76m以上、深さ0.95mを測る。底面は西方が僅かに窪み、東方に弓状のステップを形成している。断面形はU字状に近く、埋土はよく締まる褐灰色土である。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘が出土した。

ＳＫ40（第12図，図版7）

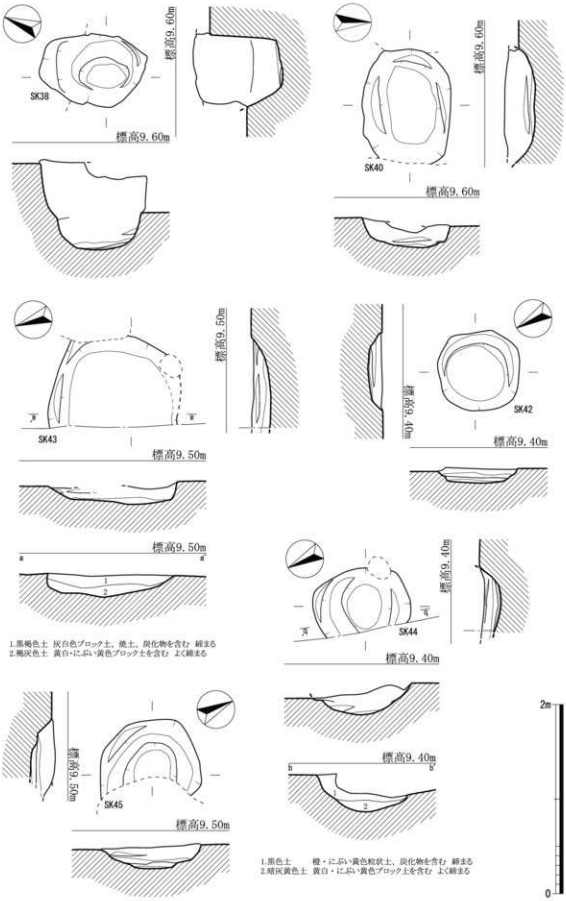
ＳＫ38の北東1.5mで検出した。東側に攪乱を受けるが平面形は小判形で、規模は長軸長1.21m以上、短軸長0.94m、深さ0.33mである。底面の東を除く三方にステップを有し、壁面は北側が垂直に、その他が緩やかに立ち上がる。底面の断面形は長軸方向が凸状、短軸が回レンズ状を呈する。埋土は灰黄褐色土の単層で、よく締まる。埋土内からは小袋半袋程度の近世陶磁器、土師器、瓦、銅片などが出土した。

ＳＫ42（第12図，図版7）

Ⅱ区中央西側で検出した。平面形は楕円形を呈し、直径0.82～0.92m、深さ0.16mを測る。底面南東側には三日月状の狭長なステップを有する。底面は回レンズ状で、壁面は緩やかに立ち上がり、上端に至る。埋土は褐灰色の単層で、締まりが悪い。ブロック土が多く含まれる一方、炭化物が少量認められた。埋土内からは近世陶磁器片7点、土師器片1点が出土したのみである。

ＳＫ43（第12図，図版7）

ＳＫ42の南西0.5mで検出した。ＳＫ44に後出する。検出当初はＳＫ44と同一遺構と認識していたが、土層観察の結果、ＳＫ44との重複関係が認められた。本遺構は、西側が調査区外に至るため平面形は不明であるが、隅丸方形もしくは隅丸長方形と推察される。規模は長軸長1.37m、短軸長0.97m以上、深さ0.24mである。底面は幅広で、その断面は回レンズ状を呈し、北壁沿いにステップを有する。埋土は上下2層からなり、上層は焼土および炭化物、下層はブロック土を多く含む。埋土内からは近世陶磁器、土製品、銭貨が出土した。



第12図　ＳＫ38・40・42～45 実測図（1/40）

SK44（第12図，図版7）

SK43の南西に重複し、これに先行する。西側の一部が調査区外に及ぶが平面形は卵形と思われる。規模は長軸長1.04m、短軸長0.67m、深さ0.34mを測る。底面北東側に二段、南西側に一段のステップを設ける。底面の断面形は凹レンズ状で、壁面は緩やかに立ち上がっている。埋土は黒褐色を呈する上層と暗灰黄色の下層からなり、後者はブロック土を多く含む。埋土内からは近世陶磁器、瓦質土器が出土した。

SK45（第12図，図版7）

SK44の南東4mで検出した。SK21に先行する。平面形は楕円形と推察され、直径1.05～1.10m、深さ0.26mである。底面の5cm程上位に狭長なステップがめぐり、西側にもう一段ステップが認められる。断面形は二段掘りの様相を呈し、底面中央部が僅かに窪む。埋土は褐灰色を呈する土壌で、ブロック土および炭化物を含み、よく締まる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦、鉄製釘、鉄滓など大袋の半袋分が出土した。

SK46（第13図，図版7）

SK44の南西1mで検出した。西側が調査区外に至るため平面形は不明である。規模は長軸長0.94m、短軸長0.33m以上、深さ0.45mを測る。底面は二段掘りのような形状を呈し、中央付近が5cm程浅く掘り込まれる。壁面は外傾し、北壁のみ垂直に近い。埋土は褐灰色を呈し、炭化物を少量含む。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘が出土したが、小袋1袋に満たない。

SK47（第13図，図版8）

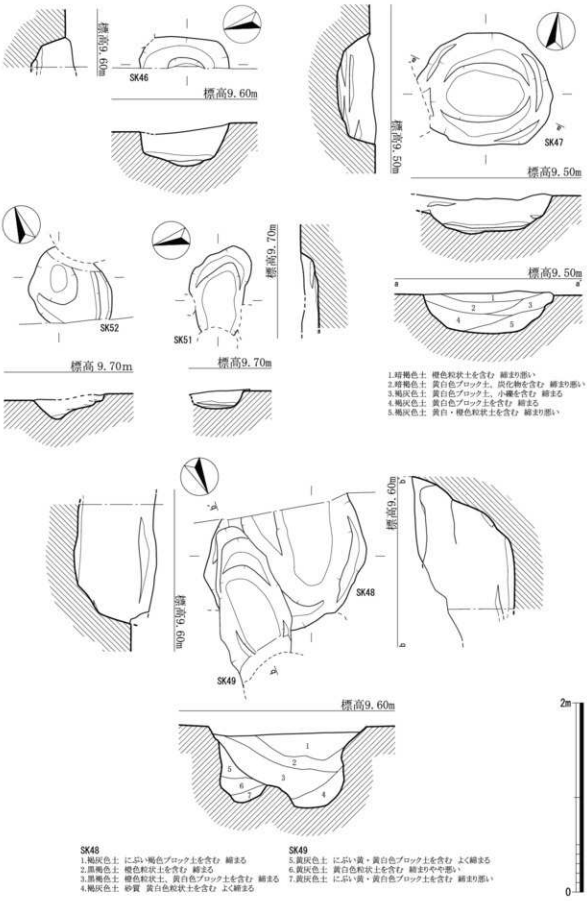
SK46の南東2.5mで検出した。西側の一部に撹乱を受ける。平面形は小判形と考えられ、規模は長軸長1.37m以上、短軸長1.19m、深さ0.41mである。底面の平面形は長円形を呈し、その周囲に複数のステップが認められる。断面形は底面が凹レンズ状をなし、各ステップで小さな段を形成しつつ立ち上がり、上端に至る。埋土は上位の暗褐色土と下位の褐灰色土からなり、ブロック土や炭化物等の多寡により細分できる。埋土内からは近世陶磁器片22点および土師器片8点が出土している。

SK48（第13図，図版8）

SK47の西1.5mで検出した。南側が調査区外に及び、土層観察の結果、SK49に後出することが判明している。平面形は楕円形と推察され、規模は直径1.55～1.80m、深さ0.88mを測る。遺構内西側に底面を有し、西壁はやや袋状に、東壁は複数のステップを経て緩やかに立ち上がる。また、北壁は外傾気味である。埋土は褐灰色土と黒褐色土が観察され、全体的に締まった土壌である。底面付近が埋没したのち、東側から流入した状況を看取できる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘が出土した。

SK49（第13図，図版8）

SK48と重複し、これに先行する。北側に撹乱を受けており、また、SK48の下位で検出したこ



第13図　ＳＫ46～49・51・52実測図（1/40）

とから平面形は定かではないが、長円形と推察する。規模は長軸長1.64m以上、短軸長0.75m、深さ0.9mである。東西断面形はU字状をなし、南壁は傾斜が緩い。埋土は水平堆積に近い様相を呈し、下層にいくに従い締まりが悪くなる。埋土内からは少量ではあるが近世陶磁器片12点、土師器片2点、鉄製釘が出土した。

ＳＫ51（第13図，図版8）

ＳＫ49の南東2mで検出した不整形の土坑である。規模は長軸長0.9m以上、短軸長0.64m、深さ0.2mを測る。底面は中心付近がやや低く、その東側に狭長なステップを確認できた。埋土は褐灰色土の単層で、締まった土壌であった。埋土内からは近世磁器4点が出土したのみである。

ＳＫ52（第13図，図版8）

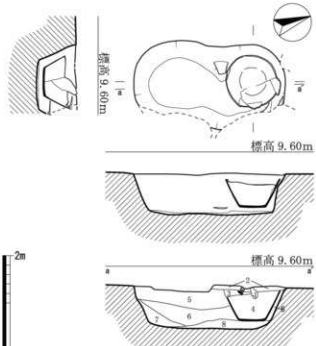
ＳＫ51の西0.5mで検出した。南側が調査区外に至るが、平面形は卵形と推察される。規模は長軸長0.93m以上、短軸長0.8m、深さ0.3mである。遺構内の北西側に小さな底面を有し、南東側に幅広のステップを一段、この上位に狭長なステップを一段設ける。底面付近の断面形はV字状を呈し、東側はステップの影響で階段状をなす。埋土はブロック土を含む褐灰色土で、埋土内からは近世陶磁器片6点が出土している。

その他

ＳＸ10（第14図，図版8・9）

Ⅰ区中央付近で検出した埋甕遺構である。ＳＫ7に先行する。平面形は長円形を呈し、規模は長軸長1.60m、短軸長0.87m、深さ0.45mを測る。底面の平面形は不整形で、その中央西側付近の8cm程上位に台形状のステップが認められる。断面形は逆台形に近く、短軸方向の底面は凹レンズ状を呈し、長軸方向の底面は若干凹凸が認められた。

遺構内北側では、陶器の大甕が出土した。土層観察から、土坑を掘削したのち、坑内北側に砂質土を含む土壌をもってしっかりと整地したうえで大甕を正立させたものと考えられる。その後、大甕の周辺に土壌を充填し安定させたのであろう。上部構造については不明で、南東隅のピットも本遺構に伴うものではない。本遺構からはこの大甕のほか、近世陶磁器片9点、サナ片2点、銭貨1点が出土した。このうち甕内部の第4層からは、陶磁



第14図　ＳＸ10実測図（1/40）

器片3点とサナ片1点が出土したのみである。

地割れ痕跡

ＳＸ100（第5図，図版9）

Ⅰ区南東隅で検出した地割れ痕跡である。SK19東側からSK11南西付近で確認し、概ね南北方向に約2.5m延びる。断割り調査は行っていないが、撹乱等の壁面で観察した深さは0.2mに満たず、灰色砂質土が充填していた。重複関係にある撹乱やSK19などの遺構すべてに先行することから、18世紀以前に比定される。

ⅲ．出土遺物

本調査出土遺物の大半は瓦と近世陶磁器で、次いで土師器の順となる。瓦については現地調査段階で選別の上、軒瓦のみを採集した。また、近世陶磁器や土師器についても、大量に遺物が出土した遺構については、文様や器形に特徴のある器種、時期を押えられる遺物などの選別を行ったうえで、一部を持ち帰った。その際には大まかな組成や傾向について、気付いた点をメモとして記録したのみである。従って、出土遺物全体の組成を検討するなどの追認作業は不可能であることをお断りしておく。

選別して取り上げた遺物はパンコンテナー8箱であるが、本来は30箱相当の遺物が出土している。瓦については前述のとおり大半を現地調査段階で選別しているため、持ち帰った遺物では近世陶磁器が最も多く、土師器がこれに次ぐ。この他には土鈴や人形などの土製品、刀子や銭貨といった金属製品ならびに簪・瓶のガラス製品が主な遺物として挙げられる。詳細については遺物観察表と写真図版を参照されたい。なお、遺物観察表の凡例は下記のとおりである。

【遺物観察表　凡例】

遺物番号と写真図版の遺物番号は同一である。

口径（長）・底径（幅）・器高（厚）の単位はcmである。（　）内の数値は現存値を、〔　〕内の数値は復元値を示す。

色調は『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社　1997年版）による。

胎土は0.5mm未満を微砂粒、1mm未満を細砂粒、2mm未満を粗砂粒、5mm未満を細礫、5mm以上を礫とした。

登録番号は、久留米市市民文化部文化財保護課が定める出土遺物の登録番号である。

（例）202209　－　000001

調査番号　　登録番号

第１表　出土遺物観察表①

遺物番号	出土遺構	種別	器種	法量 口径（長）	法量 底径（幅）	法量 器高（厚）	施釉 釉薬	施釉・調整 外面	施釉・調整 内面	施釉・調整 見込み	底面高台内印銘等	特徴	胎土	焼成	色調	備考	年代	登録番号
1 図版9	S16	磁器	碗	-	-	(2.0)	染付		文様有				灰白 精良					202209 000030
2 図版9	S16	磁器	碗	-	4.2	(2.0)	染付	雷紋			宮男年製		灰白 精良		18C後～			202209 000032
3 図版9	S16	磁器	鉢	(21.4)	-	(4.7)	染付	草	雷紋	銘等か			白 精良					202209 000031
4 図版9	SD25	磁器	碗	-	4.8	(3.0)	青花	蓮弁 雷紋	雷紋	文様有	砂付著		白 精良				中国	202209 000099
5 図版9	SD25	磁器	碗	-	3.9	(5.2)	色絵	網・花 雷紋			畳付露胎	二次焼成	白 精良				18C	202209 000096
6 図版9	SD25	磁器	皿	-	(7.8)	1.9	染付	雷 雷紋	文様有	鹿	目銘3字所 畳付露胎		白 精良		18C?～			202209 000097
7 図版9	SD25	磁器	皿	-	-	2.0	染付	雷紋	文様有	文様有	畳付露胎 砂付著		白 精良					202209 000094
8 図版9	SD25	磁器	皿	(14.6)	(9.4)	2.7	色絵	草花 雷紋	草花	草花	畳付露胎		白 精良		19C			202209 000098
9 図版9	SD25	陶器	壺	(10.4)	4.4	7.1	透明釉				畳付露胎	胴部半	浅黄 精良		18C			202209 000095
10 図版9	SD25	陶器	小瓶	7.9	4.1	3.6	透明釉	下部露胎			赤明底 露胎		浅黄 精良					202209 000096
11 図版9	SD25	陶器	皿	(12.6)	4.2	2.8	灰釉	下部露胎		胎土目4か所	型合 露胎	輪付著	灰褐 精良		16世～1650			202209 000099
12 図版9	SD25	陶器	皿	(12.4)	3.9～4.0	3.4	灰釉			砂目3か所	型合		黄褐 精良					202209 000091
13 図版9	SD25	陶器	皿	(13.3)	4.4	3.9	灰釉	下部露胎		砂目	型合・露胎 十（整備）	鉄錆口縁	浅黄 精良		16世～1650			202209 000100
14 図版9	SD25	陶器	瓶		11.6～11.8	(9.6)	銅緑釉	胴毛目			畳付露胎		灰 緻密粒（長石）		武雄系			202209 000093
15 図版10	SD30	磁器	徳利	-	-	(6.3)	梅釉		櫛目（12本）			口縁部施釉	黄灰 精良					202209 000092
16 図版10	SD30	磁器	碗			(1.4)	染付	文様有		雷紋 折枝	宮男年製		灰白 精良		18C後			202209 000155
17 図版10	SE30	磁器	碗		-	(3.1)	染付	雷紋				口縁	白 精良		18C初			202209 000204
18 図版10	SE30	陶器	徳利	(31.6)	(9.4)	13.4	梅釉		櫛目 （9本）	櫛目	胎土目2か所 赤切り・平底	口縁部施釉	灰褐 精良					202209 000205
19 図版10	SK2	磁器	碗	(8.8)	(4.2)	4.2	染付	短冊・蝶・草花		文様有		端反縁	白 精良		18世～1850			202209 000001
20 図版10	SK2	磁器	碗	(7.6)	(3.2)	5.1	染付	水平	四方襷	雷紋 五弁花	砂付著	型焼縁 （ロンニャク印刷）	灰白 精良		17世～1780			202209 000002
21 図版10	SK2	磁器	皿	(12.8)	(7.2)	3.4	染付		草	明月梅銘?	畳付露胎	型打ち・輪花・口紅	白 精良		幕末			202209 000003
22 図版10	SK2	磁器	皿	(23.0～23.8)	(14.2)	4.9～5.2	染付		花か		目銘3か所 畳付露胎	輪花・口紅・貫入	灰白 精良					202209 000004
23 図版10	SK2	磁器	鉢	(15.7)	(3.4)	8.2	染付	三段七 雷紋		雷紋 五弁花		ロンニャク印刷	灰白 精良		17C末			202209 000005
24 図版10	SK2	陶器	鉢木鉢	(17.2)	(8.0)	11.0	鉄釉 灰釉	一部露胎	一部露胎		露胎	織成後外面小心穿孔、焼成前焼締有	褐灰 精良					202209 000008
25 図版10	SK2	陶器	徳利	(3.4)	-	(15.3)	梅釉	胴毛目・三本松 鉄釉・下部露胎					白・黒・褐 精良		胴部径：16.8?			202209 000007
26 図版10	SK2	陶器	鉢片	8.4	4.4	5.7	灰釉	下部露胎			露胎		灰 精良					202209 000006
27 図版10	SK2	土師器	焙烙	(44.8)		16.6		回転ナデ	回転ナデ 胴毛目			玉縁口縁 二次焼成	褐灰 精良		胴部径（復元・長石）			202209 000009
28 図版10	SK3	磁器	碗	10.0	3.8	5.1	染付	雷紋	雷紋	雷紋 寿			灰白 精良					202209 000026
29 図版10	SK3	磁器	碗	10.0		(4.3)	染付	向付 宝珠	雷紋			端反縁	白 精良		18C			202209 000027
30 図版10	SK3	磁器	小碗	6.4	3.2	4.1	染付	草花					灰白 精良					202209 000023
31 図版10	SK3	磁器	徳利	1.7	-	(6.1)	染付	雷紋 雷紋					灰白 精良		胴部径：4.8?			202209 000028
32 図版10	SK3	土師器	火鉢	-	32.3	(18.8)		回転ナデ	胴毛目	胴毛目		高台部穿孔	褐灰 精良・長石・石英		胴部径：25.6			202209 000029
33 図版10	SK6	磁器	盃	(9.4)	(3.2) ツボ	2	染付	沉香 四方襷	雷紋	草（人）			白 緻密粒		18C			202209 000016
34 図版10	SK6	陶器	土瓶	10.5		(11.0)	梅釉	下部露胎	雷紋		三足か	上半・胴部多数五形・足（山形・小字位口	白・黒 緻密粒（長石・石英）		胴部径：21.4			202209 000017
35 図版10	SK7	磁器	盃	8.2	3.2 ツボ	2.4	染付	蜻蛉か	四方襷	雷紋 蹲踞状作種	（花）（宝形？）	端反	白 精良		18世～1860			202209 000022
36 図版10	SK7	磁器	盃	9.2	(3.8) ツボ	2.9	染付	雷紋 下口縁・足	雷紋 下口縁・足			端反	灰白 緻密粒		19C			202209 000022
37 図版10	SK7	磁器	碗	(7.6)	(3.0)	5.8	染付	蝙蝠	蝙蝠	雷紋 五弁花		型焼縁	灰 緻密粒		18C中～末			202209 000021
38 図版10	SK7	磁器	碗	(9.0)	3.8	5.4	染付	雷紋 蹲踞	雷紋 蹲踞	雷紋 五弁花			白 精良		18C			202209 000018
39 図版10	SK7	磁器	皿	-	(11.8)	(3.7)	染付	文様有	牡丹 雷紋	五弁花	砂付著	くもれんか・手 鼎足脚著	灰白 緻密粒		18C後～			202209 000019
40 図版10	SK7	土師器	小皿	(8.0)	3.1	1.2		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り		褐灰 緻密粒（雲母）					202209 000020
41 図版10	SK13	磁器	碗	-	(2.8)	(4.0)	染付	菊			畳付露胎 平坦	ロンニャク印刷	白 精良		17世～1740			202209 000030
42 図版10	SK13	磁器	碗	(11.8)	-	(2.7)	色絵	菊	雷紋 曲				白 精良		18C			202209 000039
43 図版10	SK13	陶器	鉢	(33.4)	(16.7)	14.1	灰釉 梅釉	下部露胎	目銘部露胎	草花 （指痕多）	露胎	折縁口縁	赤褐 緻密粒（長石・角閃石）					202209 000042

第２表　出土遺物観察表②

遺物番号	出土遺構	種別	器種	法量 口径（長）	法量 底径（幅）	法量 器高（厚）	焼付触媒	装飾・調整 外面	装飾・調整 内面	装飾・調整 見込み	底部高台内印紋等	特徴	胎土	年代備考	登録番号
44 図版11	SK12	土師器	小皿	(8.6)	(4.6)	1.2		回転ナデ	回転ナデ	未調整		底部付着	白 精良		202209 000041
45 図版11	SK14	磁器	瓶	-	(3.0)	(3.3)	染付			文様有		砂付着	灰 精良	17C	202209 000043
46 図版11	SK14	磁器	瓶	-	-	(4.0)	染付	菊花 蝶文	露胎				灰白 精良		202209 000044
47 図版11	SK14	陶器	皿	(12.0)	(3.6)	2.6	灰釉	ケズリ 下部露胎		砂目6か所	型か 露胎	露胎口縁 二次焼成/歪み付着	白 精良	1610～1650	202209 000045
48 図版11	SK14	陶器	鉢	-	-	(6.6)	緑釉						白 精良	武雄系	202209 000046
49 図版11	SK14	陶器	徳利			(9.2)	褐釉	回転ナデ	回転ナデ 輪目(11本)			口縁部施釉	白 精良		202209 000047
50 図版11	SK15	磁器	碗	(9.8)	(3.8) ツマミ	2.7	染付	梅 芝	四方巻	圏線 梅	無付圏線		白 精良	1770～1780	202209 000053
51 図版11	SK15	磁器	碗	10.8	4.8	5.9	染付	花唐草 圏線	四方巻	圏線 蝶か松竹梅	無付圏線		白 精良	1750～1770	202209 000049
52 図版11	SK15	磁器	碗	(11.2)	4.0	6.4	染付	印籠 蔦か	四方巻	圏線 花	無付圏線		白 精良	1750～1770	202209 000048
53 図版11	SK15	磁器	碗	11.8	6.4	6.2	染付	菊か 菊	圏線	圏線 火焚宝珠	無付圏線 角足形か	広東碗 開炉鑽著	灰白 精良	18C後～19C前	202209 000051
54 図版11	SK15	磁器	碗	11.8	6.4	6.4	染付	宝銭か	圏線	圏線 雷	無付圏線	広東碗	白 精良	18C後～19C前	202209 000050
55 図版11	SK15	磁器	碗	(7.3)	(3.4)	5.6	染付	蔦か 圏線		圏線 五弁花	無付圏線	型型跡/口紅 コンニャク印刻	白 精良	1770～1780	202209 000052
56 図版11	SK15	磁器	小皿	(7.8)	2.8	3.8	染付	笹か 圏線	圏線	圏線 唐	無付圏線		白 精良	1770～1780	202209 000054
57 図版11	SK15	磁器	皿	9.8	4.0	2.7	白磁			蛇目釉剥ぎ		輪花 砂目付着	灰白 精良	18C後～19C	202209 000057
58 図版11	SK15	磁器	皿	(20.6～30.6)	(19.6)	3.7～5.8	染付			人物 建物	圏線	口紅か/型 無付圏線	白 精良		202209 000055
59 図版11	SK15	磁器	段重	(13.4)	(9.0)	4.8	色絵	竹・梅・梅	口縁部露胎				灰白 精良		202209 000059
60 図版11	SK15	磁器	瓶	-	7.8	(17.4)	染付	菊 圏線	露胎		無付圏線	陶胎染付	白 精良	1610～1660	202209 000060
61 図版11	SK15	磁器	徳利	1.7	-	(4.8)	染付	五弁花	露胎				白 精良	1610～1660	202209 000056
62 図版11	SK15	磁器	花生	5.0	4.8～5.2	11.4	白磁	梅・蔦 雲形	口縁部露胎の外面無胎	梅花		型押し/底豆 底部内面有目	白 精良	1610～1660	202209 000058
63 図版11	SK15	陶器	壺	(11.8)	4.6	7.5	褐釉				型か		黄褐 精粗		202209 000061
64 図版11	SK15	陶器	皿	(11.6)	(3.8)	3.8	透明釉		目跡(鉄釉)			無付	灰白 精良	18C	202209 000062
65 図版11	SK15	陶器	土瓶蓋	5.9	1.8 ツマミ	2.6	鉄釉				無付	ツマミ/梅花形	赤灰 精粗	瀬戸焼系	202209 000063
66 図版11	SK15	陶器	鉢木鉢	-	12.8	(14.8)	緑釉 褐釉	松か	下部露胎		無付	焼成後穿孔 (内面から)	灰褐 精粗	武雄系 18C前	202209 000065
67 図版12	SK19	磁器	皿	(9.2)	3.0 ツマミ	2.6	白磁				無付圏線		白 精良		202209 000076
68 図版12	SK19	磁器	碗	(9.8)	3.8	5.6	染付	蔦 圏線			大明年製 無付圏線	コンニャク印刻	白 精良	18C	202209 000072
69 図版12	SK19	磁器	碗	11.8	4.5	6.2	染付	山/月 雲か/圏線			大明年製 無付圏線		白 精良	1680～1740	202209 000069
70 図版12	SK19	磁器	碗	9.8	4.2	6.0	白磁				無付圏線		白 精良	17C末～18C初	202209 000074
71 図版12	SK19	磁器	碗	10.0	4.0	5.3	白磁				無付圏線		白 精良	17C末～18C初	202209 000071
72 図版12	SK19	磁器	小碗	7.2	3.1	3.1	白磁				無付圏線		白 精良		202209 000077
73 図版12	SK19	磁器	小碗	6.0	3.0	3.3	色絵	花か			蛇/方/渦か 無付圏線		白 精良	17C末～18C初	202209 000079
74 図版12	SK19	磁器	手塩皿	(5.2)	3.1	2.5	染付		五葉松葉			赤絵調工	白 精良		202209 000073
75 図版12	SK19	磁器	皿	-	7.2	(3.1)	染付	蔦唐	蔦唐 唐花		成化年製 (目線) ナデ 無付圏線	型打ち	白 精良		202209 000071
76 図版12	SK19	磁器	徳利	-	-	(7.2)	染付	蔦草					白 精良	瀬戸焼	202209 000072
77 図版12	SK19	磁器	仏飯器	(7.2)	3.4	4.0	白磁				削り出し		白 精良	1690～1780	202209 000075
78 図版12	SK19	陶器	壺	16.6～18.7	4.2	6.7	鼠灰釉				砂目3か所 露胎		灰 微粗		202209 000080
79 図版12	SK19	陶器	壺	11.2	4.2	4.3	透明釉			砂目3か所 蛇目釉剥ぎ	砂目3か所 露胎		褐黄 精良		202209 000083
80 図版12	SK19	陶器	壺	(11.2)	4.4	4.7	透明釉		下部露胎	砂目4か所 蛇目釉剥ぎ	砂目4か所 露胎		褐黄 精良		202209 000084
81 図版12	SK19	陶器	壺	11.8	4.6	4.8	透明釉	刷毛目	刷毛目		無付圏線		灰 精良	1690～1780	202209 000085
82 図版12	SK19	陶器	皿	(12.4)	4.4	4.0	褐釉		下部露胎		蛇目釉剥ぎ	型か	黄褐 精良	内野山系	202209 000081
83 図版12	SK19	陶器	皿	12.0	5.0	3.2	緑釉 透明釉		下部露胎		砂目4か所 蛇目釉剥ぎ	砂目4か所 露胎	褐黄 精良	内野山系	202209 000082
84 図版12	SK19	磁器	碗	(9.2)	-	(4.6)	褐釉		体部露胎			四耳	灰 微粗	瀬戸焼	202209 000087
85 図版12	SK19	磁器	火入	10.0	4.0	5.0	銅釉		下部露胎	露胎	砂目3か所	削り出し	白 精良	武雄系 18C後～18C中	202209 000086
86 図版12	SK21	磁器	水滴	4.0	6.7	2.5	染付				無釉 布目跡	型押し	白 精良		202209 000088

第3表　出土遺物観察表③

遺物番号	出土遺構	種別	器種	法量 口径（長）	法量 底径（幅）	法量 器高（厚）	焼成	装飾・調整 外面	装飾・調整 内面	見込み	底面 高台内印籠等	特徴	胎土	年代備考	登録番号
87 図版12	SK26 検出中	磁器	小椀	[8.4]	[2.4]	3.2	白磁				畳付露彫		白 精良		202209 000103
88 図版12	SK26 検出中	磁器	小椀	7.0	3.4	4.7	染付	之ろけ縦 簡線			畳付露彫		白 精良	19C	202209 000101
89 図版12	SK26 検出中	磁器	皿	-	12.0	(2.2)	染付	不明 簡線	蕨線 （型はじき）	雲状松竹梅	高台下面露彫		灰白 精良	19C～	202209 000102
90 図版12	SK26 検出中	陶器	壺形底	8.0	3.2	2.6	鉄釉	露彫			糸切り 露彫	鼠・鼠摺付着	明赤褐 精良		202209 000104
91 図版12	SK26 検出中	土師器	小皿	6.5～6.6	3.8	1.7			回転ナデ	回転ナデ ナデ	糸切り	鼠摺付着	橙褐 精粗（雲母）		202209 000105
92 図版12	SK26	陶器	皿	[14.4]	5.0	4.2	透明釉			鉄土目8ケ所 焼か	鉄土目3ケ所 焼か	鉄錆手	淡黄 精良	16世～1650	202209 000107
93 図版12	SK26	陶器	皿	-	4.8	(2.6)	透明釉			鉄土目4ケ所	鉄土目3ケ所 焼か	鉄錆手	淡黄 精良	16世～1650	202209 000110
94 図版12	SK26	陶器	皿	-	[4.4]	(2.6)	灰釉			鉄土目3ケ所	鉄土目3ケ所 焼か	黄入 鉄錆手	灰白 精良	16世～1650	202209 000106
95 図版12	SK26	陶器	壺	-	-	(3.7)	緑釉	鉄化目	一部露彫				灰 精粗	武雄系	202209 000111
96 図版12	SK26	陶器	壺	-	-	(11.3)	褐釉	格子目 一部露彫	格子目			外面沈線 鼠摺露彫	にぶい橙 精良	17C後～	202209 000113
97 図版12	SK26	陶器	壺	-	-	(9.7)	緑釉		露彫				淡黄 粗砂粒	武雄系、登録番号 000108と同一	202209 000109
98 図版12	SK26	陶器	壺	-	-	(8.2)	緑釉		露彫				淡黄 粗砂粒	武雄系、登録番号 000108と同一	202209 000108
99 図版12	SK26	陶器	徳利	-	-	(3.6)	鉄釉		櫛目（口本）			口縁部施釉	灰褐 精砂粒		202209 000112
100 図版12	SK27	磁器	碗	7.9	3.4	5.2	染付	梅束 鳥		鳥	畳付露彫		白 精良	18C末～19C	202209 000120
101 図版12	SK27	磁器	碗	9.0	3.9	4.7	染付	二重網目			畳付露彫		白 精粗	19C後	202209 000134
102 図版12	SK27	磁器	碗	12.2	4.4	6.2	染付	唐花 連弁	雲文 簡線	唐花（大）	畳付露彫	端反鋸 墨弾き	白 精良	19C	202209 000114
103 図版12	SK27	磁器	小椀	6.4	3.0	4.5	染付	雲文・蕨か 草（型はじき）	雲文		畳付露彫		白 精良		202209 000115
104 図版12	SK27	磁器	小椀	6.3	3.2	5.4	染付		蔓草（大）		畳付露彫	黄入	灰白 精良	18世～1860	202209 000116
105 図版12	SK27	磁器	小椀	6.3～6.4	3.0	5.6	染付		蔓草（大）		畳付露彫		灰白 精良	18世～1860	202209 000117
106 図版12	SK27	磁器	皿	13.2～14.0	9.0	4.6	染付	区画・四唐 連続	菊	草・蕨か竹亀甲・亀甲・鉄錆甲・丸	畳付露彫 畳付露彫	型打ち	灰白 精良		202209 000118
107 図版12	SK27	磁器	皿	15.0	8.0	4.6	白磁			目跡3ケ所	蛇目凸形高台	三箇口縁 軸に青味有	白 精良	19C後～末	202209 000122
108 図版12	SK27	磁器	小皿	8.6～8.7	4.0	2.3	白磁			菊花	畳付露彫	型打ち 口紅	灰白 精良		202209 000123
109 図版12	SK27	磁器	鉢	[13.4]	8.2	7.4	染付	蕨線・区画 花	蕨 丸束	蔓草		型打ち	淡黄 精良		202209 000124
110 図版12	SK27	磁器	花生	6.5	4.0	14.2	染付	草 流水	露彫			底深 アルミナ赤付着か	灰白 精良	19C 鉄錆釉：6.8	202209 000129
111 図版12	SK27	磁器	香炉	7.4	3.0	4.9	染付	雲龍	下部露彫		露彫		淡黄 精粗（雲母）	17世～1860	202209 000121
112 図版12	SK27	磁器	小皿	7.9	5.4	6.5	青磁				畳付露彫	口縁部外面露彫 口縁部内面露彫	白 精良	鉄錆釉：10.0	202209 000125
113 図版12	SK27	陶器	皿	7.9	1.0 ツヤ	3.9	灰釉		露彫			ツヤ大形	灰白 精良		202209 000126
114 図版12	SK27	陶器	皿	10.0	-	(2.2)	灰釉		露彫			ツヤ欠損	灰白 精良		202209 000124
115 図版12	SK27	陶器	小椀	7.8	3.2	4.7	白釉	山水（鉄絵）			畳付露彫	端反鋸 外面掛分け	にぶい黄橙 精良		202209 000128
116 図版12	SK27	陶器	壺形底	7.2	2.5	2.4	鉄釉				糸切り	重ね焼き	橙 精砂粒		202209 000130
117 図版12	SK27	陶器	壺形底	4.7～6.1	2.8	3.8	鉄釉				糸切り	灯蓋型	橙 精砂粒	受焼焼：6.0～6.2	202209 000129
118 図版12	SK27	陶器	壺形底	[4.8]	[4.2]	2.7	褐釉				糸切り 露彫	灯蓋型	にぶい赤褐 精砂粒	受焼焼：7.0	202209 000139
119 図版12	SK27	陶器	壺形底	[4.4]	4.4	2.9	褐釉				糸切り 露彫	灯蓋型	灰 精砂粒	受焼焼：5.6	202209 000131
120 図版12	SK27	陶器	カンデラ	-	3.4	4.8	透明釉				露彫		淡黄 精良	鉄錆釉：4.4	202209 000137
121 図版12	SK27	陶器	瓶	-	6.0	(18.1)	透明釉	文様不（鉄絵）			切入（墨書） 露彫		灰 精良	19C	202209 000143
122 図版12	SK27	陶器	土瓶蓋	5.6	0.4 ツヤ	1.5	灰釉		露彫			ツヤ有 鼠摺露彫	にぶい橙 粗砂粒		202209 000138
123 図版12	SK27	陶器	土瓶蓋	6.6	-	(2.0)	鉄釉		露彫			ツヤ欠損	淡黄 精良		202209 000139
124 図版12	SK27	陶器	土瓶蓋	6.0	1.2 ツヤ	2.9	鉄釉		露彫			ツヤ大形	淡黄 精砂粒		202209 000127
125 図版12	SK27	陶器	土瓶	5.2	6.0	9.9	鉄釉	口縁・下部露彫	一部露彫		指痕有 露彫	上手・耳に形 善明蓋・注口は平形	灰黄 精良	鉄錆釉：12.6	202209 000140
126 図版12	SK27	陶器	土瓶	5.8	6.5	9.0	褐釉	口縁・下部露彫	上部露彫		露彫	上手・耳に形 注口鉄錆・蓋付着	にぶい橙 粗砂粒	鉄錆釉：13.2	202209 000141
127 図版12	SK27	陶器	土瓶	7.2	7.3	10.6	褐釉	沈線・木賊 口縁・下部露彫	上部露彫		露彫	上手・耳に形 注口鉄錆・蓋付着	橙褐 精砂粒	鉄錆釉：16.4	202209 000142
128 図版12	SK27	陶器	土鍋	19.4	[7.8]	10.7	鉄釉	下部露彫			露彫	両手 掛け者	灰黄 精砂粒	鉄錆釉：22.0	202209 000132
129 図版12	SK27	陶器	鉢	38.4	15.4	16.9	瓦質土器			鉄土目6ケ所	露彫		にぶい黄橙～浅黄橙 精砂粒		202209 000146

第４表　出土遺物観察表④

遺物番号	出土遺構	種別	器種	法量 口径（径）(cm)	法量 底径（幅）(cm)	法量 器高（厚）(cm)	焼付箇所	装飾・調整 外面	装飾・調整 内面	装飾・調整 見込み	底面高台内印痕等	特徴	胎土	年代備考	登録番号
130 図版14	SK27	陶器	鉢	34.6	18.6	(19.5)	重況輪	下部露胎		胎土目砂痕	胎土目砂痕 露胎		灰 粗砂粒(長石)		202209 000147
131 図版14	SK27	陶器	こね鉢	(38.0)	12.4	16.2	白釉	鉄釉	粕（鉄絵）	砂目	高台部露胎	二段陶器 重ね焼き	橙 細砂粒	武雄系 19C後～19C	202209 000148
132 図版14	SK27	陶器	鉢か碗	(17.0)	9.0	13.1	風況輪 梅鉢	梅鉢さ	口縁部施釉		露胎	外面部分ケ	暗灰 細砂粒		202209 000149
133 図版14	SK27	陶器	鉢か碗	40.6	22.0	23.8	梅鉢	水草状刷毛 藏況受容		格子目			にぶい橙～橙 細砂粒		202209 000145
134 図版14	SK27	上師器	壺か	34.0	(12.4～12.8)	11.9	梅鉢		煙状 (15～18本)		平底 露胎		にぶい橙 橙	19C後～	202209 000146
135 図版14	SK27	上師器	鉢か	27.4	20.0	23.8		海(スタンプ文)	ナデ 刷毛目	刷毛目		赤化部 煤付着	明赤褐～にぶい黄橙 粗砂粒(雲母・長石)	鞴痕有:33.4	202209 000150
136 図版14	SK27	上師器	火鉢	28.5～39.5	22.0～34.4	17.4		ナデ 刷毛目	ナデ 刷毛目	刷毛目		赤化部 二次焼成	橙 粗砂粒(雲母・長石)		202209 000151
137 図版14	SK29	磁器	小杯	6.8	2.6	3.2	染付	圏線	圏線	圏線	畳付露胎		白 精良		202209 000151
138 図版14	SK29	上師器	小皿	8.7	4.8	2.1		回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ ナデ	糸切り	煤付着	にぶい橙～淡黄橙 粗砂粒		202209 000153
139 図版14	SK29	上師器	鞴羽口	6.7	3.8	1.6		回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	鞴痕付着	淡黄～にぶい橙 細砂粒		202209 000152
140 図版14	SK30	磁器	碗	7.7	(4.0)	7.1	染付	詩歌 梅鉢	梅鉢		畳付露胎		灰白 精良	18C	202209 000154
141 図版14	SK34	磁器	鉢	-	-	(4.8)	染付	圏線	区画 牡丹	圏線 草花	文様有 畳付露胎		灰白 精良	型紙番号 0001562同一	202209 000157
142 図版14	SK34	磁器	鉢	-	-	(4.8)	染付	草花か	区画 牡丹				灰白 精良	型紙番号 0001572同一	202209 000156
143 図版14	SK34	陶器	壺か	-	-	(3.6)	梅鉢		煙状 (7本か)			口縁部施釉	にぶい赤橙 細砂粒		202209 000159
144 図版15	SK35	磁器	小皿	(7.1)	(6.0)	2.7～3.3	色絵		一部露胎			型押し 施釉	灰白 精良		202209 000158
145 図版15	SK35	陶器	鉢	(28.4)	-	(5.8)	緑釉 梅鉢	櫛目					灰黄 細砂粒		202209 000160
146 図版15	SK36	磁器	碗	-	-	(4.8)	染付	花か					白 精良		202209 000161
147 図版15	SK36	陶器	皿	-	-	(3.6)	透明釉	文様有(鉄絵)					淡黄 精良		202209 000161
148 図版15	SK36	陶器	壺			(14.8)	梅鉢	格子目 藏況受容	格子目				赤褐 精良	19C前	202209 000163
149 図版15	SK36	陶器	鉢碗		-	(5.6)		煙状 (11本)				口縁部施釉	赤褐 精良		202209 000164
150 図版15	SK37	磁器	碗	9.7	3.9	5.6	白磁				畳付露胎	口縁	灰白 精良	18C	202209 000167
151 図版15	SK37	陶器	皿	14.0	6.0	3.6	染付	重弧 圏線	牡丹 蝶	牡丹	「蝶」	口縁	灰 精良	鞴痕有 18C前	202209 000168
152 図版15	SK37	瓦質 土師	鉢	-	-	(18.2)		刷毛目 ナデ・オサエ	刷毛目 ナデ・オサエ				灰～暗灰 粗(雲母・長石・石英)		202209 000166
153 図版15	SK38	磁器	碗	8.6	3.4	4.7	白磁				畳付露胎	口縁	白 精良		202209 000171
154 図版15	SK38	磁器	皿	(8.4～9.8)	(3.3)	2.5～2.8	染付	松葉	菊		畳付露胎 砂付着	型打ち・輪花 コンニャク印刷	白 精良	1690～1780	202209 000172
155 図版15	SK38	磁器	皿	12.8	7.3	2.9	染付	重弧 圏線	千鳥唐草	圏線 五本花	大判千鳥 畳付露胎	口縁 コンニャク印刷	白 精良	1690～1780	202209 000173
156 図版15	SK38	磁器	皿	(13.6)	(8.4)	2.8	染付	花唐草 圏線	唐草	圏線 鶴・草	畳付露胎 「梅」	蹄跡	白 精良	17C末～18C	202209 000169
157 図版15	SK38	磁器	水注	16.6	2.6	2.0	染付	文様有	布目		底面露胎	竹節	灰白 精良		202209 000174
158 図版15	SK38	磁器	不明	(3.1)	(3.1)	0.5	染付	文様有					灰白 精良		202209 000170
159 図版15	SK38	陶器	鉢	(21.8)	-	(5.7)	透明釉	刷毛目 下部露胎	刷毛目 下部露胎	刷毛目 下部露胎		五徳口縁 二次焼成	赤褐 細砂粒		202209 000175
160 図版15	SK38	上師器	鞴羽口	6.1	3.8	1.7		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り	鞴痕付着	淡黄 細砂粒(雲母)		202209 000176
161 図版15	SK40	磁器	皿		-	(1.8)	染付	文様有		蝶か	畳付露胎		白 精良	17C	202209 000178
162 図版15	SK40	磁器	碗	(11.0)	-	(5.0)	青磁	圏線 唐草か				片蝶か	白 精良	1630～1650	202209 000177
163 図版15	SK40	陶器	皿	(12.6)	(4.2)	3.0	鳴況輪	鳥か(鉄絵) 下部露胎	鳥か(鉄絵)	梅か(鉄絵)	露胎 砂目3ケ所		にぶい黄 細粒子	唐津系 1610～1650	202209 000179
164 図版15	SK42	磁器	皿	-	-	(1.7)	染付			圏線 蝶		型紙口縁	灰白 精良		202209 000180
165 図版15	SK42	陶器	壺か	-	-	(4.7)	梅鉢			煙状 (7本)		口縁部施釉	灰褐 精良		202209 000181
166 図版15	SK43	磁器	皿	-	-	(4.0)	染付	唐草 蝶唐草			圏線	ツマミ欠損	白 精良	1690～18C前	202209 000182
167 図版15	SK43	磁器	紅皿	(8.2～8.4)	-	(1.3)	白磁					型打ち 紅付着	灰白 精良		202209 000183
168 図版15	SK44	磁器	皿	(13.7)	(3.4)	4.3	染付		圏線	蛇ノ目釉剥ぎ	砂目2ケ所	生焼け	灰白 精良	18C	202209 000185
169 図版15	SK44	陶器	壺	10.4	5.4	7.4	天目釉				畳付露胎		灰～灰黄 精良	1650～1690	202209 000186
170 図版15	SK44	陶器	香炉	-	(3.6)	5.4	灰釉 梅鉢		露胎	露胎			灰 精良		202209 000187
171 図版15	SK44	瓦質 土師	火鉢	-	-	(8.3)		菊一重 (スタンプ文)	刷毛目				灰 粗砂粒(雲母・長石・石英)		202209 000188
172 図版15	SK45	磁器	碗	(10.6)	4.3	6.2	染付	圏線 蝶			畳付露胎		灰白 精良	17C末～18C前	202209 000189
173 図版15	SK45	磁器	皿	(13.2)	8.5	3.2	染付	草	圏線	蝶 天下御免	圏線・畳付露胎 目釉2ケ所		白 精良	17C末～18C前	202209 000190

第５表　出土遺物観察表⑤

遺物番号	出土遺構	種別	器種	法量 口径（長）	法量 底径（幅）	法量 器高（厚）	焼成	施釉・調整 外面	施釉・調整 内面	施釉・調整 見込み	底面高台内印痕等	特徴	胎土	年代備考	登録番号
174 図版18	SK48	磁器	皿	-	-	(1.8)	染付	草花	斜格子			口紅	白 精良	18C後	202209 000191
175 図版18	SK48	陶器	壺	-	-	(8.7)	鉄釉	波	一部露胎			鉄泥顔料	灰白 微砂粒	17C後	202209 000192
176 図版18	SK47	磁器	碗	(10.8)	(4.2)	5.6	灰釉	下部露胎					灰白 精良	1610～1650	202209 000195
177 図版18	SK47	陶器	皿	-	4.1	(2.2)	灰釉	露胎		砂目3ヶ所	露胎		にぶい黄橙 精良	1610～1650 登録番号0001972と同一	202209 000194
178 図版18	SK47	陶器	皿	-	4.3	(2.1)	灰釉			砂目4ヶ所 見込	砂目4ヶ所 見込		にぶい黄橙 精良	1610～1650	202209 000193
179 図版18	SK47	陶器	皿	-	-	(1.3)	灰釉					鐵錆目釉	明褐 精良	1610～1650 登録番号0001943と同一	202209 000197
180 図版18	SK47	陶器	皿	-	-	(2.5)	灰釉	下部露胎				鐵錆目釉	にぶい黄 精良	1610～1650	202209 000196
181 図版18	SK48	磁器	碗	-	-	(4.9)	染付	鐵錆 蹴出					灰白 精良	17C後	202209 000198
182 図版18	SK48	陶器	皿	(14.8)	-	(3.1)	透明釉					鉄泥手	淡黄 精良		202209 000199
183 図版18	SK48	陶器	鉢	(11.6)	-	(6.0)	鐵絵釉						灰黄 精良		202209 000200
184 図版18	SK49	磁器	碗		3.8	(3.5)	青白磁	鬼面			一部露胎	鉄泥顔料	灰白 精良		202209 000201
185 図版18	SK49	陶器	皿	(11.8)	-	(2.5)	灰釉					鐵錆	灰 精良		202209 000202
186 図版18	SK49	陶器	鐵鉢	(26.5)	12.4	14.2	褐釉		櫛目 (10本)	櫛目	砂土目6ヶ所 赤切り・平底	口縁部施釉 片口	にぶい橙 精良		202209 000203
187 図版18	SK51	磁器	碗	(14.4)	(4.0)	6.2	色絵		折枝 菊花		蛇目釉剥	輪花	白 精良	17C後～末	202209 000207
188 図版18	SK51	磁器	碗	-	3.6	(3.0)	染付	文様有 鬼面		鬼面	蛇目釉剥		白 精良		202209 000206
189 図版18	SK52	磁器	皿	-	4.8	(2.1)	染付			鬼面 牡丹	蛇目釉剥	型打ち 鉄泥顔料	灰白 精良	17C前	202209 000208
190 図版18	SK52	陶器	鉢か		-	(3.8)	緑釉 褐釉	櫛目					褐灰 精良		202209 000209
191 図版17 第4層	SX10 SP3	磁器	碗	(9.2)	(3.6)	5.2	染付	鬼面	鬼面	火焔宝珠	蛇目釉剥		白 精良	18C後	202209 000036
192 図版17	SX10	磁器	碗	-	-	(2.6)	染付	雲草	鬼面			鉄泥画	灰白 精良	18C	202209 000035
193 図版17	SX10	陶器	壺	-	-	(7.0)	褐釉	回転ナデ	回転ナデ		格子目		橙 粗砂粒(長石)		202209 000034
194 図版17	SX10	陶器	壺	-	32.3	(46.6)	褐釉	格子目 ナデ	格子目 ナデ	格子目	露胎		灰褐・にぶい赤褐 微砂粒		202209 000037
195 図版17	SP3	磁器	碗	(9.4)	4.0	4.8	染付	菊 水草					灰白 微砂粒	18C後	202209 000014
196 図版17	SP4	磁器	小碗	7.5	3.0	4.3	染付	花鳥 鬼面					白 精良	18C前	202209 000015
197 図版17	SP9	須恵器	坏身	(13.6) 縁L		(3.0)		回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ				微砂粒(長石)、黒鐵	8C後	202209 000023
198 図版17	SK2	土製品	人形	2.7	2.8	0.5～1.8							型押し・接着 頭土元禄打形	微砂粒(雲母)	重3.6g 202209 000012
199 図版17	SK2	土製品	人形	2.9	2.2	0.6～1.0							型押し・接着 天神形	精良	重3.6g 202209 000011
200 図版17	SK2	土製品	人形	3.3	2.2	0.9～1.8							型押し・接着 猿形	精良	202209 重6.1g 000013
201 図版17	SK11	土製品	土鈴	4.9	3.7	3.6		ナデ 押え	ナデ 押え			白化粧残存	微砂粒(雲母・長石)	重121.8g	202209 000042
202 図版17	SK15	土製品	人形	(5.0)	4.4	2.1							型押し・接着 獅子	微砂粒(雲母)	重203.5g 202209 000068
203 図版17	SK35	土製品	土鈴	4.1	3.2	2.7		ナデ 押え	ナデ 押え			土ふあり 白化粧残存	微砂粒(雲母・長石)	重18.8g	202209 000161
204 図版17	SK43	土製品	面か	-	2.8	2.4		ナデ 押え	ナデ 押え			白化粧残存	にぶい黄橙～にぶい黄橙 微砂粒、赤色粒子	重19.5g 最大径4.4	202209 000184
205 図版17	SD9	側製品	鞍貝	2.45	2.45	0.15							古寛永		重2.15g 202209 000211
206 図版17	SD9	側製品	鞍貝	2.3	2.45	0.15							古寛永		重2.14g 202209 000212
207 図版17	SK16	側製品	鞍貝	2.35	2.35	0.1							新寛永		重2.08g 202209 000216
208 図版17	SK29	側製品	巾	(3.2)	0.45～1.3	0.15～0.25									重8.8g 202209 000212
209 図版17	SK29	側製品	煙管	6.25	0.3～1.25								雁首		重5.68g 202209 000213
210 図版17	SK36	側製品	煙管	(5.0)	2.95								羅宇		大直径径:1.95 重6.57g 202209 000214
211 図版17	SK43	側製品	鞍貝	2.45	2.45	0.15							古寛永		重2.08g 202209 000215
212 図版17	SK15	鉄製品	刀子	(12.6)	1.95～3.75	0.15～0.55							木質残存		重56.13g 202209 000217
213 図版17	SK2	ガラス製品	瓶	(9.9)	1.3	3.9						土底	気泡・雲母・細目	青緑透明	側厚径:1.4 重3.8g 202209 000013
214 図版17	SK15	ガラス製品	簪か	(5.7)	0.4	0.4							鉄有線		重1.3g 202209 000067
215 図版17	SK7	瓦	軒丸瓦	(5.5)	(5.4)	2.2		巴・珠文	ナデ			二次焼成	粗砂粒(雲母・長石・石英)		重40.1g 202209 000024
216 図版17	SK15	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(7.0)	2.0		巴・珠文 ナデ	ナデ ケズリ				微砂粒(長石)		重187.8g 202209 000064
217 図版17	SK15	瓦	軒丸瓦	16.6	(13.0)	2.1		巴・珠文(12) ナデ	ナデ				微砂粒(雲母・長石)		重490.0g 202209 000065

Ⅳ. 総括

本調査は久留米城外郭の南東部に形成された原古賀町一丁目における発掘調査で、町屋内の遺構の分布状況を把握すること、また、当町の東境や旧池町川流路を確認することを目的として調査を実施した。結果、町境や旧河川を検出することはできなかったが、溝2条、井戸2基、土坑36基、埋甕遺構1基および地割れ痕跡を検出するとともに、古墳時代の所産を含むピットを確認することができた。以下、近世の遺構を中心に整理し、総括としたい。

まず、時代順に概観すると、17世紀の遺構としてはSK14・26・36・40・47～49・51・52が確認され、Ⅱ区南西を中心に分布する。18世紀に比定されるものはSK11・19・37・38・43～46等に加え、SD8やSE33・50を挙げられるが、SE33は19世紀に下る可能性もある。これらの分布は、前代と同じくⅡ区を中心としつつもⅠ区東端にも広がりを見せる。19世紀から幕末にかけては、SK2・5～7・15・30・32、SX10などが営まれており、Ⅰ・Ⅱ区の北半を中心に検出された。

土坑については穴倉や廃棄土坑が大半を占めるが、SK37・43は多量の焼土を含むことから火災にともない18世紀前半に埋没した可能性がある。SK37は朝妻焼の皿が出土しており、朝妻焼が藩営事業として創業した正徳5年（1715）以後に埋没したことになる。この時期の大きな火災としては、原古賀町内の200軒程度を焼失した享保9年（1724）の火災や、府下大半を焼失した同11年（1726）の田代火事などが挙げられる。溝については、SD8が区画を意図したものと推察され、本遺構の東側の空間と西側に設けられた土坑や井戸との空間を画したものであろうか。また、SD25は詳細な性格までは言及できないが、規模や形状から町境や町屋境とは考え難く、近代の可能性も残る。SX10はトイレ遺構と考えていたが、明解な糞石等を検出できなかったため、用途不明と言わざるを得ない。なお、これらの遺構が構成する空閑地に、建物等を確認することはできなかった。

本調査で検出された近世の遺構は、調査地の西側を南北に走る柳川往還から10m以上を隔てて検出したことから、往還に東接する表長屋の裏庭に営まれた遺構群と思われる。また、削平の影響も考慮する必要があるが、検出遺構には町屋境が確認できなかったことから、表口は7間以上を測るものと考えられる。町屋1軒分の敷地としては広大であるが、『石原家記』や『久留米藩旧家由緒書』には表口8間以上を有する商家が散見される。この中には町別当や目付などを担った家もあり、当地についても有力な商家が所有していた可能性がある。原古賀町の目付役は詳らかではないが、別当は江戸初期に大坂屋が、寛文元年（1661）からは田鍋屋が代々務めている。

最後に、地割れ痕跡については遺構や撹乱との重複関係から18世紀以前の所産と考えられる。本遺跡の周辺では、十間屋敷遺跡（第5次調査、久留米市文化財調査報告書第366集）、京隈侍屋敷遺跡（第12次、同227集）および鳥飼小学校校庭遺跡（第1次、同157集）などでも検出されている。これら既往の調査で確認された地割れ痕跡が概ね東西方向に認められるのに対して、今回検出した痕跡は南北方向に確認されており注目される。

写　真　図　版

（1）Ⅰ区全景（北東から）

（2）Ⅱ区全景（北東から）

図版２

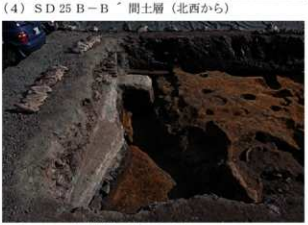
（１）Ⅱ区西側トレンチ掘削状況（南西から）

（２）ＳＤ８掘削状況（北東から）

（３）ＳＤ 25 Ａ－Ａ´ 間土層（北西から）

（４）ＳＤ 25 Ｂ－Ｂ´ 間土層（北西から）

（５）ＳＤ 25 Ｃ－Ｃ´ 間土層（北西から）



（６）ＳＤ 25 掘削状況（北西から）

（７）ＳＥ 33 土層（東から）

（８）ＳＥ 50 土層（東から）

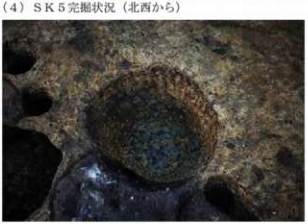
（1）ＳＥ 50 掘削状況（東から）

（2）ＳＫ１完掘状況（北西から）

（3）ＳＫ２完掘状況（北から）

（4）ＳＫ５完掘状況（北西から）

（5）ＳＫ６完掘状況（西から）



（6）ＳＫ７完掘状況（西から）

（7）ＳＫ 11 土層（北西から）

（8）ＳＫ 11 完掘状況（北西から）

図版４

（１）ＳＫ 14 掘削状況（北東から）

（２）ＳＫ 15 土層（東から）

（３）ＳＫ 19 土層（北東から）

（４）ＳＫ 19 掘削状況（南東から）

（５）ＳＫ 20 掘削状況（西から）

（６）ＳＫ 21 完掘状況（東から）

（７）ＳＫ 22 掘削状況（北西から）

（８）ＳＫ 23 完掘状況（北西から）

（１）ＳＫ 24 完掘状況（北から）

（２）ＳＫ 26 土層（北東から）

（３）ＳＫ 26 遺物出土状況（南東から）

（４）ＳＫ 26 遺物出土状況部分拡大（北東から）

（５）ＳＫ 27 完掘状況（北から）

（６）ＳＫ 30 完掘状況（北東から）

（７）ＳＫ 31 完掘状況（北西から）

（８）ＳＫ 32 土層（南から）

図版６

（１）ＳＫ 32 完掘状況（東から）

（２）ＳＫ 34 土層（北西から）

（３）ＳＫ 34 完掘状況（北西から）

（４）ＳＫ 35 完掘状況（北東から）

（５）ＳＫ 36 完掘状況（北東から）

（６）ＳＫ 37 土層（北東から）

（７）ＳＫ 37 完掘状況（南西から）

（８）ＳＫ 38 完掘状況（北から）

（１）ＳＫ 40 完掘状況（南西から）

（２）ＳＫ 42 完掘状況（東から）

（３）ＳＫ 43 土層（南東から）

（４）ＳＫ 43 完掘状況（南東から）

（５）ＳＫ 44 土層（南東から）

（６）ＳＫ 44 完掘状況（南東から）

（７）ＳＫ 45 完掘状況（北西から）

（８）ＳＫ 46 完掘状況（南西から）

図版８

（１）ＳＫ 47 土層（北東から）

（２）ＳＫ 47 完掘状況（東から）

（３）ＳＫ 48 土層（北東から）

（４）ＳＫ 49 土層（北東から）

（５）ＳＫ 48・49 完掘状況（西から）

（６）ＳＫ 51 完掘状況（北東から）

（７）ＳＫ 52 完掘状況（北東から）

（８）ＳＸ 10 土層（南東から）

（１）ＳＸ 10 遺物出土状況（北西から）

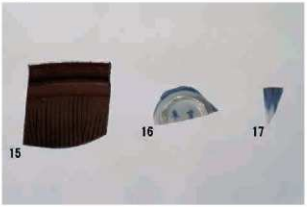
（２）ＳＸ 10 完掘状況（北東から）

（３）ＳＸ 100 検出状況（北から）

（４）ＳＸ 100 土層（北東から）

出土遺物①

図版 10


15
16
17

23
22
19
20
21

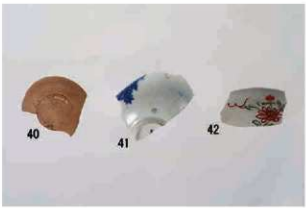
24
26
25

27

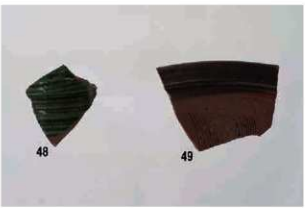
28
30
29
31

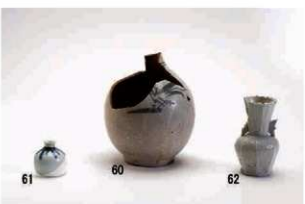
34
32

39
38
37
33
35
36


40
41
42

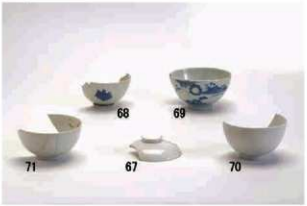
出土遺物②





出土遺物③

図版 12


68
69
71
67
70

73
75
76
72
74
77

78
81
79
80

85
84
83
82

90
88
86
91
89
87

92
93
94

95
97
98
99
96

100
101
102

出土遺物④

107
106
105
104
103

109
110
112
111
108

113
114
115

116
120
117
118
119

122
123
121

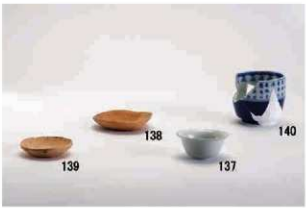
124・125
126

127
128

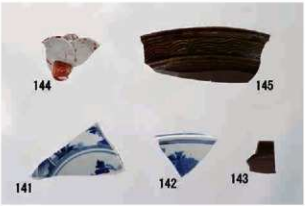
129

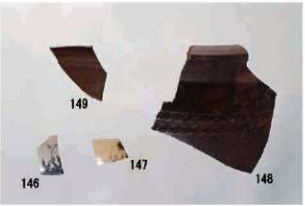
出土遺物③

図版 14



出土遺物⑥


144
145
141
142
143


149
146
147
148

150
151

152

153
155
156
154
160

159
157
158
161

164
165
162
163

167
171
166
170

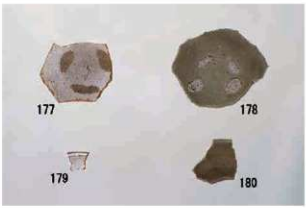
出土遺物⑦

図版 16

168
169

172
173

176
175
174


177
178
179
180

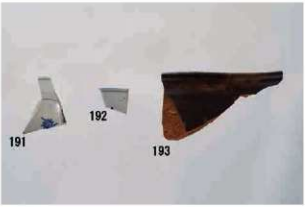
181
183
182

184
185

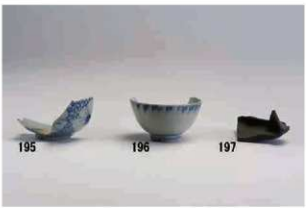
186

188
189
187
190

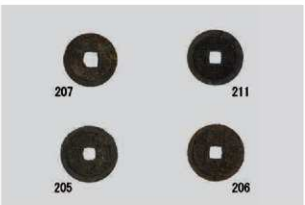
出土遺物⑧

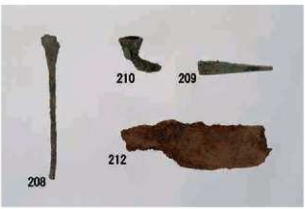

191
192
193

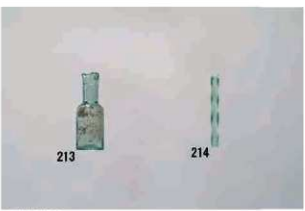
194


195
196
197

201
203
204
198
199
200
202


207
211
205
206


210
209
212
208


213
214

215
216
217

出土遺物③

報 告 書 抄 録

ふりがな	くるめじょうかまちいせきだい31じはっくつちょうさほうこく
書　　名	久留米城下町遺跡第31次発掘調査報告
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第452集
編著者名	廣木　誠
編集機関	久留米市　市民文化部　文化財保護課
所　在　地	〒830-8520　福岡県久留米市城南町15-3　℡：0942-30-9225　FAX：0942-30-9714 Email：bunkazai@city.kurume.lg.jp
発行年月日	2024（令和6）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
くるめじょうかまちいせき 久留米城下町遺跡 第31次調査	くるめしひよしまち 久留米市日吉町 5-9,-10,-11,-56	40203	031132	33°18′56″	130°30′34″	20221006 ～ 20221215	205㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久留米城下町遺跡 第31次調査	集落	古墳 近世	ピット 溝　2条 井戸　2基 土坑　36基 埋甕遺構　1基 地割れ痕跡	須恵器、近世陶磁器、土師器、瓦質土器、土製品、ガラス製品、金属製品、瓦	久留米城下の原古賀町一丁目における町屋の調査。

要　約

調査地は、絵図等によれば久留米城外郭の南東に展開する久留米城下町の中心部に位置し、池町川の南側に形成された原古賀町一丁目の中央付近にあたる。調査の結果、17世紀前半から幕末までの遺構を中心に検出した。これらの遺構は、柳川往還に東接する町屋の裏庭に営まれたものと推察される。また、町屋の境を確認することができなかったため、表口は7間以上を測るものと考えられる。『石原家記』や『久留米藩旧家由緒書』には表口8間以上を有する商家が散見され、この中には町別当や目付などを担った家もある。このことから、当地についても原古賀町の別当であった大坂屋や田鍋屋などの有力な商家が所有していた可能性がある。

土木工事の届出日	令和4年8月8日	遺物の発見通知日	令和4年12月20日 （4文財第2609号）

久留米城下町遺跡
－ 第31次発掘調査報告 －
久留米市文化財調査報告書　第452集
令和6年3月31日
発　行　久留米市教育委員会
編　集　久留米市 市民文化部 文化財保護課
印　刷　香和印刷株式会社